

基本目標

Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【危機管理監】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

防災計画等整備事業

市民防災意識啓発事業

防災施設・資機材管理事業

防災学習センター管理運営事業

【評価】

防潮堤の整備効果や津波避難施設の確保など津波からの被害低減に取り組むとともに、地域防災リーダー研修や、災害ボランティアコーディネーター養成講座など、地域防災力の向上に取り組んだ結果、「自分の命は自分で守らなくてはならない」と思う人の割合は、約 75%の高い値を維持して推移したものの、目標値の達成には至らなかった。

これは、新型コロナウイルスの影響により出前講座や防災訓練などへの参加者の低下により、出前講座や防災訓練などに参加する機会の少ない若い世代の方々や、災害の恐れが比較的少ない地域の方々に対して、災害を自分事として捉える意識を醸成することが十分に行えなかったことが影響したと考える。

【今後の方針】

本市は、迅速かつ的確な避難情報の発信・伝達を行うとともに、災害を自分事として捉えられるよう次世代の担い手になる小中学生や親世代、逃げ遅れの可能性が高い高齢者に対し、本市防災学習センターや出前講座などで、地域のリスクや避難情報を理解して適時適切な避難行動をとり、命が守れるよう啓発活動を推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合	%	76.4	80	80.5	81.0	81.5	82.0
		(2014 年度)	75	74.2	74.1	74.4	—

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【土木部】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

浸水対策支援事業	急傾斜対策事業	橋りょう耐震補強事業
市道整備事業	国県道整備事業	スマートインターチェンジ関連整備事業
三遠南信自動車道関連整備事業	交通安全施設等整備・修繕事業	道路照明灯 LED 化更新事業
道路維持修繕事業	道路防災事業	河川管理対策事業
河川維持修繕事業	河川改良事業	都市下水路整備事業
水防活動事業	土木施設災害復旧事業	

【評価】

激甚化・頻発化する風水害、切迫する南海トラフ巨大地震、土木インフラ等の老朽化に対応するため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により、道路維持修繕（メンテナンス）や道路防災、道路整備、河川改良など各分野の対策を着実に実施した。また、交通安全では、事故削減対策やAIを活用した危険箇所予測マップによる啓発など、ソフト・ハード両面から安全・安心なまちづくりを推進した。KPIでは、緊急輸送路等の橋りょう耐震対策に加え、災害対応拠点等までのラストワンマイルを含んだ道路ネットワークの強靱化を推進し、災害に強いまちづくりを推進した。

【今後の方針】

激甚化・頻発化する風水害、発生が予想される南海トラフ巨大地震から市民の命と暮らしを守る災害に強く、安全で快適な社会基盤の構築と強化のため、国土強靱化に資する国が施行する道路事業の促進や緊急輸送道路等、災害に強い道路ネットワークの構築と機能強化を進める。

緊急輸送道路など重要道路の道路斜面对策や橋りょう耐震化対策及びインフラ老朽化対策を推進し、橋りょう、トンネルなどのインフラ老朽化対策については、「事後保全型」から「予防保全型」への転換を図り、持続可能な維持管理を実現させ、市民の安全・安心を確保するとともに、災害支援活動を支え、信頼性・安定性が高く、安全で安心して利用できる道路整備を進める。

また、市民生活に身近な道路施設等に関する要望や損傷箇所の通報など、市民協働による維持管理を迅速かつ着実に実施する。

幹線道路や生活道路における交通事故の現状を踏まえ、事故危険箇所や事故多発交差点等の事故防止対策の推進。通学路等の安全対策では、「通学路交通安全プログラム」に基づく、通学路の整備要望や地域の意見を踏まえ、面的な安全対策を関係機関や市内関係部署と連携して推進するとともに、AIなど、ビッグデータを活用した交通事故分析により、優先度を踏まえた効果的な安全対策を推進するとともに、地域や関係団体等と連携した交通安全教育を推進し、交通安全意識の高揚を図るなど、ハード・ソフト両面の対策を推進する。

激甚化、頻発化する水災害を踏まえ、国や県等をはじめとする流域のあらゆる関係者が協働して、ハード・ソフト一体となった「流域治水」の取組を推進し、河川改修や雨水貯留施設等の整備を加速化するとともに、点検や巡視結果を踏まえた適切な維持管理により、浸水被害の軽減を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
緊急輸送道路等の橋りょう耐震対策実施率	%	60.9	62.1	62.7	64.0	66.5	70.8
		(2019年度)	60.9	64.0	68.9	75.2	—

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【都市整備部 花みどり担当】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

公園整備事業

公園施設改良事業

【評価】

防災機能を有する公園として、避難地となる広場を備えた2公園の整備を進めた。浜松城公園鹿谷地区では、公園用地を取得し、公園整備を進めた。東部やすらぎ公園では、公園用地の取得を進めるとともに公園整備を進め、一部を開設した。

避難地として利用できる指定管理公園等において、エネルギー使用を削減できる照明灯のLED化を進めた。指定管理公園（浜松城公園ほか14公園）については令和5年度にLED化が完了している。

【今後の方針】

引き続き、防災機能を有する2公園の整備を進める。浜松城公園鹿谷地区は、避難地となる広場等を備えた公園整備を進めていく。東部やすらぎ公園は、公園用地の取得を進めるとともに公園整備を実施していく。

引き続き、指定管理公園以外の都市公園においてLED化を進める。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【上下水道部】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

管路耐震化事業

【評価】

水道事業は、基幹管路耐震化事業に着手した 2011 年度から 2023 年度までに 116 kmの耐震化を行い、基幹管路耐震適合率は対象延長の 8 割まで進捗している。

下水道事業は、地震対策事業において基幹管きょの耐震診断及び対策を行った結果、基幹管路の耐震化適合率は概ね計画通り推移している。

【今後の方針】

上下水道施設の耐震化、老朽管更新などの強靱化や、雨水貯留施設の整備などの雨水対策による防災・減災を重点的に実施する。

災害時に上下水道一体で効率的かつ効果的に対応する体制を整備する。

【重要業績評価指標（KPI）】

【主要業績計画指標（KPI）】							
指標名	単位	基準値 （時点）	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【都市整備部】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

災害対策事業

【評価】

静岡県第4次被害想定第二次報告書で示された建設型応急仮設住宅必要戸数（19,896戸）に対し、整備済台帳は2023年度末時点で19,021戸（充足率95.6%）である。

【今後の方針】

2024年度末には、必要戸数が確保できる見込みのため台帳整備事業は終了。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 （時 点）	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【市民部 文化振興担当】

(1) 創造都市の推進

◆多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出

創造都市推進事業 音楽文化発信・交流事業

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

文化財調査顕彰事業	文化財施設公開事業	文化財活用地域連携事業
埋蔵文化財調査事業	博物館運営事業	遺跡公園運営事業
博物館展示会開催事業	美術館運営事業	美術館展覧会開催事業
秋野不矩美術館管理運営事業	秋野不矩美術館展覧会開催事業	

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆まちなかのにぎわい創出

創造都市推進事業

【評価】

浜松国際ピアノコンクール、サウンドデザインフェスティバルの開催、無形民俗文化財の公演事業や博物館、美術館での特別展や展覧会の開催等により、交流人口・関係人口の拡大に寄与した。

【今後の方針】

今後も「音楽の都・浜松」、音楽創造都市浜松を世界に向けて発信するとともに、文化・芸術・歴史に触れる機会を提供し、文化観光など地域の活力・魅力の向上、新たな交流人口・関係人口の増加に努める。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
音楽を始めとする市の文化事業に対する満足度	%	41.5	39	40	41	42	43
		(2019年度)	42	44.9	35.2	45	—

Ⅲ-2 にぎわいの創出【産業部】

(1) 創造都市の推進

◆多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出

地場産業振興支援事業

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆まちなかのにぎわい創出

中心市街地活性化施策調査研究事業

商店街振興対策事業

都心機能集積支援事業

【評価】

にぎわい創出の拠点となる公共施設「新川モール」を2022年4月開設するとともに、都心へのオフィス進出支援やエリアリノベーションの推進、空き店舗対策など、まちなかのにぎわい創出に向けた事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた歩行量の減少や空き店舗の増加は回復途上にあるが、にぎわい創出に向けた環境整備が進んだと評価している。

【今後の方針】

中心市街地活性化に向け策定するビジョンに基づき、中心市街地活性化に向けた各種取組を官民が連携して実施する体制を構築するとともに、空き店舗や空き地など低未利用地の解消に向けた支援やICT企業等のオフィス誘致を推進し、中心市街地の活性化を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
歩行者通行量(休日・25地点)	人	190,833	200,000	210,000	220,000	230,000	241,000
		(2015～2019平均)	150,688	139,494	150,958	172,107	—
歩行者通行量(平日・25地点)	人	135,972	138,000	140,000	142,000	144,000	146,500
		(2010～2019平均)	101,129	87,261	114,088	110,894	—

Ⅲ-2 にぎわいの創出【産業部 観光・ブランド振興担当】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆ブランドの確立

シティプロモーション事業 観光宣伝事業

◆国内外からの交流人口の拡大

観光客誘致事業 観光宣伝事業 海外戦略推進事業

浜松・浜名湖 DMO 形成支援事業 MICE 推進事業

◆ふるさと納税の受入強化

ふるさと納税事業

【評価】

コロナ禍の長期化による観光交流客数の大幅な減少やプロモーション機会の喪失など厳しい環境が続いたが、デジタルマーケティングを活用したプロモーションや WEB 商談会・セミナーの開催、多言語 WEB サイトの開設などデジタル技術を積極的に活用し、浜松・浜名湖ブランドの確立に向けた戦略的なプロモーションや観光誘客・受入環境の整備を実施した。

【今後の方針】

引き続き、デジタル技術などを活用しターゲットに合わせた戦略的なプロモーションを展開する。官民連携による高付加価値旅行者をはじめとするインバウンドなど観光客の受入体制整備、国内外からの観光誘客、ふるさと納税を通じた本市の魅力発信等の取り組みを進めることで、交流人口・関係人口の拡大を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市区町村別認知度ランキング（全国順位）	位	28	25	23	20	17	15
		(2019 年度)	31	44	32	33	—
市区町村別魅力度ランキング（全国順位）	位	44	40	38	35	32	30
		(2019 年度)	45	59	50	44	—
全国規模の撮影支援件数	件	92	96	100	105	110	115
		(2019 年度)	94	91	109	114	—
観光交流客数	千人	18,809	20,400	20,800	21,200	21,600	22,000
		(2018 年度)	9,940	11,890	14,452	17,493	—
外国人延べ宿泊者数	千人	372	370	380	390	400	410
		(2018 年度)	5	10	32	111	—
欧米豪からの外国人延べ宿泊者数	千人	33	37	38	39	40	41
		(2018 年度)	1	2	11	26	—
寄附件数	件	49,370	100,000	125,000	150,000	175,000	200,000
		(2018 年度)	111,115	131,307	126,110	142,769	—

Ⅲ-2 にぎわいの創出【企画調整部】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆ブランドの確立

首都圏情報収集発信事業

【評価】

やらまいか交流会の開催や各種イベントへの参加によって、首都圏において浜松・浜名湖ブランドをPRするとともに首都圏在住者が浜松のひと・もの・しごとに触れる機会を創出することができた。また、首都圏在住の若者との交流を目的とした若者交流会の開催や浜松サポーターズクラブ会員に対しての定期的なメールマガジン配信によって、関係人口の確保につながった。

【今後の方針】

各種事業の実施により、浜松は首都圏在住者にとっても魅力的な街であることが分かった。引き続き、やらまいか交流会の開催や各種イベントへの参加によってシティプロモーションに努めるとともに、若者交流会の開催やメールマガジンの配信を継続することで、交流人口・関係人口の拡大を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【都市整備部 花みどり担当】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

舘山寺総合公園運営事業

公園整備事業

【評価】

はままつフラワーパークは2020年に開園50周年を迎え、NEXT50事業等を実施したが、新型コロナウイルスの影響もあり、交流人口の拡大は困難であった。2024年の浜名湖花博開催に向けて、新たな庭園などの施設整備を進めたところ、花博全体では100万人を超え、フラワーパーク会場では目標40万人を上回る49.8万人の来園者を迎え、花と緑のまち・浜松の魅力を発信することができた。

浜松城公園鹿谷地区では、公園用地を取得し、敷地造成、園路広場などの公園整備を進めた。遠州灘海浜公園篠原地区では、トビオ南北区域の基盤整備を行うとともに、県に整備を要望している多目的ドーム型スタジアムの早期実現に向け、その規模や構造等について県と協議を行った。

【今後の方針】

花博開催理念の継承や花の名所等を巡るガーデンツーリズムを通じ、花と緑のまち・浜松の魅力を発信し、自然と共生した持続可能で幸福感深まる市民生活の創造を進める。

浜松城公園は、引き続き鹿谷地区の公園整備を進めるとともに、旧元城小学校跡地の公園整備に向けて検討を行う。遠州灘海浜公園篠原地区は、引き続き多目的ドーム型スタジアムの早期実現に向け県との連携を強化するとともに、トビオ南北区域の公園整備を進めていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 （時 点）	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【市民部 スポーツ振興担当】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

大型スポーツイベント等誘致事業 ビーチ・マリンスポーツ推進事業

【評価】

オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿の受け入れや、プロスポーツチーム公式戦の誘致など、都市の魅力向上や交流人口の拡大に資する取組を行った。また、江之島ビーチコートの施設規模等の検討や事業者公募作業、三ヶ日マリンスポーツ施設の地質調査や環境影響調査を行った。

【今後の方針】

プロスポーツチームとの連携による観戦機会の創出や、国際大会・全国大会の積極的な誘致を進める。また、ビーチマリンスポーツの聖地として、江之島ビーチコートの整備や運営に係る事業者選定、三ヶ日マリンスポーツ施設の建設に向けた準備を進め、スポーツによる「まちを元気にする力」を最大限に活かし、にぎわいを創出する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【都市整備部】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

天竜浜名湖鉄道経営支援事業

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆まちなかのにぎわい創出

市街地再開発組合支援事業

【評価】

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、公共交通の利用者数は回復しつつあるものの、コロナ禍前までは戻っていない。

旭・板屋A地区は事業完了し、中心市街地の居住人口は、目標 13,050 人に対して実績 12,756 人であるものの、2020 年の実績と比べて約 5%増加した。市街地再開発事業と関連公共施設整備等を行ったことにより、中心市街地居住人口が増加し、歩道機能の増進と歩行空間における快適性の向上を図ることができた。

【今後の方針】

引き続き、県や沿線市町、交通事業者と連携し、利便性向上を図る。

今後も、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業を計画する新規地区に係る相談及び指導を行なうと共に、中心市街地の居住人口増加や歩行空間等の快適性の向上に取り組む。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【市民部】

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆中山間地域のにぎわい創出

市内間交流事業

居住促進事業

中山間地域まちづくり事業

中山間地域コミュニティビジネス起業資金貸付事業

生活支援事業

【評価】

市内間交流事業を4年間で127回実施し、都市部と中山間地域との交流を促進したほか、中山間地域への居住支援により162人が地域の担い手として移住した。また、中山間地域まちづくり事業を4件採択し、事業実施団体に寄り添った支援を通じて、中山間地域の課題解決を図るとともに、浜松山里いきいき応援隊員を全6地域に配置し、地域の暮らしを支援した。

【今後の方針】

都市部と中山間地域における住民同士の交流機会を創出するとともに、中山間地域への関心を高め、中山間地域への移住を促進する。また、中山間地域の課題解決や振興に向けて、地域主体によるまちづくりを支援するとともに、浜松山里いきいき応援隊の配置を通じて地域の暮らしを支え、地域力の維持・向上を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市が実施する交流事業の回数	回	125	155	185	215	245	275
		2019年度末	142	175	211	252	—
市の制度を利用して中山間地域へ移住した人数	人	111	142	174	207	241	276
		2019年度末	144	165	236	273	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【市民部】

(1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

◆市民協働のまちづくりの推進

市民協働推進事業 自治会等コミュニティ振興事業 安全で安心なまちづくり支援事業
市民安全対策事業 空家対策事業

◆多様性を生かした市民主体の地域社会の形成

ユニバーサルデザイン推進事業 男女共同参画推進事業

【評価】

将来のまちづくりの担い手となる人材の育成やコミュニティ担当職員を中心とした地域の状況に応じたコミュニティ支援、地域における防犯活動の支援などを通じて、地域コミュニティ活動の活性化に取り組むとともに、ユニバーサルデザインや男女共同参画の推進により、年齢や性別、国籍などにかかわらず、誰もが安全・安心・快適に暮らせる社会の実現に向けた取組を実施することができた。

【今後の方針】

まちづくりを担う人材の育成や多様な主体のマッチング、自治会等をはじめとするコミュニティ支援や地域防犯活動の支援により、市民が安心して暮らすことができるまちを目指すとともに、個性や多様性を認め合い、互いに尊重し合うことができる社会の実現を目指し、自身が望む適材適所で活躍でき、様々な分野で平等に参画できるよう意識の醸成や環境整備に取り組めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市と多様な主体との協働件数	件	181	182	184	186	200	220
		2018 年度	129	146	162	179	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【市民部 文化振興担当】

(1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

◆市民協働のまちづくりの推進

生涯学習機会提供事業

【評価】

市内全6大学と連携し、協働センター等を会場に、大学生自らが講師となって講座を開催することで、学習機会を提供し、大学生と市民とが互いに自己の学びを深めることに寄与した。

【今後の方針】

今後も、市内全6大学と連携することで大学生の学習成果を発揮する機会の充実を図り、地域課題の解決に向けた学習を進めていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【企画調整部】

(1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

◆多様性を生かした市民主体の地域社会の形成

多文化共生推進事業

国際交流連携推進事業

【評価】

2021 年度から開始した外国人材活躍宣言事業所認定制度や 2023 年度から再編した多文化創造活動促進事業などにより、外国人の文化的多様性や能力を生かした取組が進み、地域社会の活性化や相互交流が進んだ。指標の一つである共生社会づくりの市民満足度も目標値に近づいている。

【今後の方針】

引き続き、多様な主体との協働・連携により、外国人の文化的多様性や能力を都市の活力や発展につなげる取組を推進する。また、国際交流・協力、国際理解、多文化共生に取り組む市民団体等への活動助成を継続し、地域における国際交流の促進を図ることで市民満足度の達成に向けた意識醸成を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりの市民満足度	%	9.4	16	18	20	20	20
		(2019 年度)	13.8	14.9	13.2	18.8	
世界の人々との活発な市民交流の取組の市民満足度	%	11.1	18	20	20	22	25
		(2019 年度)	19.1	19.6	14.6	15.3	

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【健康福祉部】

(2) 人と人とのつながりをつくる社会の実現

◆医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供

認知症施策推進事業 障害者（児）施設整備費助成事業 介護保険事業
 障害者（児）自立支援給付事業 障害者（児）地域生活支援事業 障害者（児）生活支援事業
 こころの健康づくり推進事業

◆70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の社会参加支援）

介護保険事業

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

介護保険事業

【評価】

認知症サポーター養成人数は、コロナ禍においては計画値を下回る状況が続いていたが、2023年度はコロナ明けの反動で目標を大幅に上回ることができた。

障がいのある人が地域で希望を持って安心して生活を送ることができるよう、個々の状況に応じた障害福祉サービスを提供するとともに、障がいに関する社会の理解を進めるための広報・啓発活動に取り組んだ。

ささえあいポイント事業の登録者数は微減が続いている。年齢構成を見ると、特に70から74歳の減少が大きい。65歳以降も就労を継続する人が多いことが理由の一つとして考えられる。

ロコモーショントレーニング事業への参加者数は、コロナ禍においても漸増しているが、計画値には届かない状態が続いている。参加者が伸びない理由としては、活動のマンネリ化も指摘されている。

【今後の方針】

認知症サポーターの養成については、認知症の人を正しく理解し、認知症に対する誤解と偏見を解消し、認知症の人や家族の応援者を増やすため、引き続き講座の開催を行っていく。

障がいのある人が地域で安心して生活を送るため、必要な支援を受けられるよう特性に応じたサービス提供体制や相談支援体制の充実を図る。また、ライフステージに応じた切れ目ない支援のため、関係機関との連携を図る。

ささえあいポイント事業については、高齢者の社会参加を促進しボランティア活動を通じた地域貢献意識を育てるため、引き続き活動への参加について広く周知を行っていく。

ロコモーショントレーニング事業については、新規の参加について周知を図るとともに、既存団体の活動が継続されるよう支援していく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
認知症サポーター養成人数	人	4,118	4,700	3,500	3,600	3,700	3,450
		(2018年度)	2,393	2,863	3,334	4,157	—
障がい者グループホームの定員	人	429	475	589	662	735	735
		(2018年度)	591	664	868	876	—
ささえあいポイント事業のボランティア登録人数	人	3,849	5,000	4,550	4,800	5,050	4,300
		(2018年度)	4,176	4,129	4,088	4,079	—
ロコモーショントレーニング事業への参加者数	人	14,438	15,800	16,600	17,400	18,200	15,500
		(2018年度)	13,142	13,426	14,052	14,164	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【健康福祉部 医療担当】

(2) 人と人とのつながりをつくる社会の実現

◆医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供

ひきこもり対策推進事業

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

健康支援事業

介護保険事業

【評価】

ひきこもり対策については、本人・家族への対応を継続的に実施して、個々の状況に応じた支援を実施できている。居場所作り、社会体験の場の提供、スキルアップのための活動等も開催し、個々の状態、能力に応じた社会的自立の促進のための事業を実施することができた。

健康はままつ 21 に基づき、生活習慣病の発症と重症化予防に向けて、がん検診に対する意識の低い若年層の受診率向上を図るため、LINE を活用した受診勧奨に取り組んだ。また、関係団体や企業等と連携し、野菜摂取状況を見える化することで、若い世代の食に関する関心の向上を図り、糖尿病等の生活習慣病予防につなげる「野菜摂取量増加推進事業」に取り組むとともに、浜松ウエルネス官民連携社会実証事業で一定の成果がみられたデジタルを活用した血糖コントロール事業を市民サービスの一環として事業化した。こうした取り組みから、市民の健康意識の向上や健康づくりの実践に繋げ、健康を守り支える環境整備を推進することにより、健康寿命は、男女ともに延伸し計画値を上回った。

【今後の方針】

ひきこもり対策については、本人・家族へ個々の状況に応じた継続的な支援を行う。特に当事者支援に関しては、個別相談対応の他、グループ活動等のメニューの検討・再構築も随時行いながら、参加しやすい環境を整え、本人の状態、能力に応じた社会的自立の促進を図っていく。

健康寿命の更なる延伸に向けた市民主体の健康づくり、介護予防、生活習慣病の発症、重症化予防を推進するとともに、健康は一生涯継続し、次世代に受け継がれるものとして捉え、ライフコースアプローチの視点で、包括的な切れ目のない支援を一層推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
健康寿命の延伸	歳	男 73.19 女 76.19	男 73.58 女 76.54	男 73.68 女 76.64	男 73.78 女 76.74	男 73.88 女 76.84	男 73.98 女 76.94
		(2016 年度)	国未調査	男 73.74 女 76.65	国未調査	国未調査	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【ウエルネス推進事業本部】

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

浜松ウエルネスプロジェクト事業

【評価】

2023年4月1日にウエルネス推進事業本部が新設され、官民連携プラットフォームを核に浜松ウエルネスプロジェクトを推進し、市民の健康増進、地域企業の健康経営の促進、ヘルスケア産業の創出に向けた取組の更なる強化・拡充に取り組んだ。

市民の健康増進では、2022年10月にヘルスケアアプリ「はままつ健幸クラブ」の運用を開始し、市民の健康意識・行動変容を促した。

地域企業の健康経営の促進では、協会けんぽや地域企業等との連携により周知・啓発を図ったことにより、市内の健康経営優良法人認定企業数は年々増加し184者となった。

ヘルスケア産業の創出では、地域内外の企業が参画する官民連携プラットフォーム「浜松ウエルネス・ラボ」において、認知機能の改善、喫煙とストレス状態との関連性など様々な社会実証事業を展開した。なかでも本市の課題である糖尿病予備群を対象とした血糖値改善の実証事業は、実装へと進展が図られるとともに、事業成果を活用した市の事業化につながった。

こうした取組を通じて、当プロジェクト事業は着実に進展していると評価している。

【今後の方針】

引き続きウエルネスシティ（予防・健幸都市）の実現を目指して浜松ウエルネスプロジェクトを推進し、官民連携プラットフォームの取組により、市民の予防・健康意識の啓発を通じた行動変容、健康優良法人数の増加、官民及び民間企業相互の協業やマッチング機会を創出し、健康寿命のさらなる延伸に取り組んでいく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
健康寿命	歳	男 72.86	男 73.58	男 73.68	男 73.78	男 73.88	男 73.98
		女 76.82	女 76.54	女 76.64	女 76.74	女 76.84	女 76.94
		2013	国未調査	男 73.74 女 76.65	国未調査	国未調査	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【市民部 スポーツ振興担当】

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

スポーツ普及・活性化事業

【評価】

スポーツの「する」「みる」「ささえる」につながるイベントの開催や支援、人材育成のための人材派遣や研修等を実施するなど、市民の健康づくりに寄与した。

【今後の方針】

引き続き、「する」「みる」「ささえる」スポーツを推進するため、異分野融合による地域スポーツを支える新たな体制整備を検討する。また、市民一人ひとりのスポーツ実施率の向上に資するため、地域団体や競技団体との連携を強化し、スポーツ政策を推進していく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり【都市整備部】

(1) 拠点ネットワーク型都市構造の形成

◆集約型の都市づくり

都市計画策定事業	市街地再開発組合支援事業	高塚駅北第二公共団地区画整理事業
組合等区画整理支援事業	市営住宅管理事業	市営住宅ストック総合改善事業
住まいづくり推進事業	高齢者向け優良賃貸住宅助成事業	

◆拠点を結ぶ交通ネットワークの形成

交通計画推進事業	公共交通推進事業	高塚駅北第二公共団地区画整理事業
組合等区画整理支援事業	浜北中央北地区公共施設整備事業	

【評価】

立地適正化計画の内容を反映した新・都市計画マスタープランを策定するとともに、拠点性の向上を目指し、居住及び居住関連施設の立地誘導を図る用途地域の変更（22ha）等の取り組みを行った。目標指標である居住誘導区域内人口密度は、目標値 61.5 人/ha に対し、2023 年度実績は 60.6 人/ha であった。居住誘導区域の見直し等により若干減少しているが、一定程度の維持ができておりと評価している。

組合等区画整理事業支援事業の進捗率は、事業進捗率 70%である。2021 年度より浜北中央北地区（組合施行）、2022 年度より高塚駅北第二地区（公共施行）の土地区画整理事業を着手した。土地区画整理事業と市街地再開発事業等の推進により、高度利用と都市機能の更新、都心居住の促進を図ることができた。

住宅使用料の収納率は、計画値 98.24%に対し実績値 99.69%と上回っている。既存ストックの活用に関しては、浜松市公営住宅等長寿命化計画どおり工事を実施した。三世代同居等や居住誘導区域内への移転に伴う住宅取得等への支援を実施したが、市政全般としてのこどもを産み育てやすい環境に対する満足度及び住んでいる地域の住みやすさに対する満足度ともに目標値に達していない。住まいづくり推進事業は指標を市政全般の満足度としているため、目標の達成は難しいが、事業により居住誘導区域内の人口が増えているため一定程度の成果は出ていると評価している。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、公共交通の利用者数は回復しつつあるものの、コロナ禍前までは戻っていない。遠鉄八幡駅のバリアフリー化は、市内中心部の工事のため関係者が多岐にわたり、その調整に時間を要したため事業進捗が遅れた。（2023 目標 100%→83%）

【今後の方針】

拠点ネットワーク型都市構造の形成を目指し、引き続き土地利用計画制度の運用方針の策定や誘導施策の実施などの各種取組により、拠点性の向上と居住誘導区域内人口密度の維持を図り、集約型の都市づくりを推進する。

また、今後も、拠点ネットワーク型都市構造を実現する拠点形成を目指し、市街地再開発事業や土地区画整理事業を推進していく。

住宅施策については、引続き初期滞納者への催告を強化し高収納率を維持していく。また、公営住宅等長寿命化計画に基づき整備を計画的に行う。住まいづくり推進事業は、子育て世代が安心してこどもを産み育てやすい住生活の実現に向け補助金の見直しを実施していく。

交通政策についても、引き続き、交通事業者と連携し、公共交通の利便性を向上し、利用者数増を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
居住誘導区域内人口密度	人 /ha	61.5	61.5	61.5	61.5	61.5	61.5
		(2018 年度)	61.0	60.7	60.6	60.6	
居住及び居住関連施設の立地 誘導を図る用途地域の変更	ha	0	17	22	22	22	22
		(2018 年度)	17	22	22	22	
主要な駅、バス停の利用者	千人	27,380	約 27,200	約 27,200	約 27,200	約 27,200	約 27,200
		(2019 年度)	18,410	19,850	22,860	2025.5 頃確定	

Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり【土木部】

(1) 拠点ネットワーク型都市構造の形成

◆拠点を結ぶ交通ネットワークの形成

天竜川駅周辺整備事業

都市計画道路整備事業

【評価】

広大な市域のネットワーク化や市街化の進展、将来の都市構造の形成等に対応するため、都市計画道路では、植松伊佐地線（野口～山下工区）、飯田鴨江線（名塚工区）、池川富塚線、高林芳川線、美園線等の用地取得や物件移転補償、道路改良工事等に取り組んだ。天竜川駅南口アクセス道路の整備が完了し、2024年3月19日に供用を開始した。

【今後の方針】

市民ニーズを踏まえ、緊急性、必要性を判断しつつ、人・自転車・自動車など、様々な道路利用者が安全で快適に移動できる道路整備の推進により、豊かな生活と地域の経済発展に寄与する道路ネットワークの形成を推進する。

引き続き、都市計画道路に係る用地取得や物件移転補償、道路整備工事等を進め、都心や地域生活拠点間の道路ネットワーク機能の強化により、利便性向上と移動円滑化を図るため、早期の供用開始を目指す。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
主要な駅、バス停の利用者	千人	27,380	約 27,200	約 27,200	約 27,200	約 27,200	約 27,200
		(2019年度)	18,410	19,850	22,860	2025.5頃確定	—

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【財務部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

アセットマネジメント推進事業 財政状況公表事業 公有財産維持管理事業
借地解消事業 公共建築物長寿命化推進事業

【評価】

規律ある財政運営と必要な投資を両立しつつ、資産の総合的・総括的な管理と施設の長寿命化を推進し、効率かつ効果的に資産を活用するとともに、保有財産の売却、クラウドファンディングの活用などにより新たな財源の確保に努めた。

重要業績評価指標として設定したタテモノ資産・インフラ資産充足率は、2023年度の実績値が計画値をそれぞれ上回る結果となっているが、昨今の建設物価の急激な上昇を算定の基礎である将来の改修・更新経費の見込みに反映できていないことが課題となっている。

【今後の方針】

適正な債務管理と必要な投資の両立によるしなやかな財政運営を行うとともに、保有財産・公共施設の最適化・長寿命化及び民間活力の導入を進める。

タテモノ資産・インフラ資産充足率については、令和7年度からの次期公共施設等総合管理計画において、充足率の算定に物価変動を反映するなど見直しを図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (2015年度)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
タテモノ資産・インフラ 資産充足率	%	タテモノ資産	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0
		64.1	82.2	77.5	80.3	84.0	
		インフラ資産	85.0	85.0	85.0	85.0	90.0
		52.7	95.6	100.4	106.8	107.4	

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【市民部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

区再編推進事業

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆SDGs達成に向けたステークホルダーの活動推進

消費生活推進事業

【評価】

市議会特別委員会において区再編の協議を進めるとともに、パブリック・コメントや行政区画等審議会、区協議会への諮問・答申を経て、2021年5月に決定したスケジュールどおり、2023年2月に区設置等条例が議決され、2024年1月に新たな区へ移行した。

フェアトレードに関する広報展の開催や出前講座の実施、大学生との協働による商品の販促、学校給食でのフェアトレード食材の使用など、持続可能な社会の実現に向けて、エシカル消費のひとつであるフェアトレードの普及・促進に取り組み、フェアトレードタウンとして2回目の更新認定を受けた。

【今後の方針】

行政区再編については、2023年度をもって事業完了。

様々なステークホルダーとの協働により、学校、地域、職域において、広く消費者教育を推進するため連携を強化する。また、より効果的な啓発方法を検討し、イベント実施を行う。引き続き、出前講座やパネル展示を行い、フェアトレードを含むエシカル消費の啓発に取り組む。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
フェアトレードに関する 認知度	%	44.1	53.3	56.6	60.0	60.0	60.0
		2018年度	30.2	44.5	44.5	39.7	—

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【企画調整部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

オープンデータプラットフォーム・ホームページ運用事業

◆広域連携の推進

広域行政推進事業

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆SDGs達成に向けたステークホルダーの活動推進

総合計画推進事業

【評価】

2021（令和3）年度に本格運用を開始したオープンデータプラットフォームを活用して、ホームページ、各種 SNS、LINE チャットボットなど市民が日常利用する媒体において情報発信を行うなど市民サービスの向上を図った。

三遠南信地域の広域連携では、三遠南信サミットの開催、三遠南信自動車道等の整備促進に係る要望活動、ホームページ等を通じた情報発信などを行った。

SDGs の達成に向け学校や企業等への出前講座を実施するとともに、シンポジウムを開催し、基調講演、浜松市 SDGs プラットフォーム会員による取組発表、マッチング交流会を実施することで SDGs の啓発及び取組の推進を図った。指標としている会員間交流イベント等の回数は、2023 年度は計画値に達しなかったものの、着実に連携の取組みが増えている。

【今後の方針】

引き続き、市民が日常利用する媒体で必要とする情報を受け取れるようにオープンデータプラットフォーム及び市公式ホームページを活用して、市民に対して効率的に市政情報を発信する。また、オープンデータの件数や内容を拡充するとともに、それらの周知や利活用促進についても注力していく。

東三河、遠州及び南信州の「三遠南信地域」における官民連携組織である「三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）」において、会長市として地域内の産官学金の連携と地域活性化に向けた取組を進め、さらなる体制強化を図る。

SDGs に対する市民や企業等の意識向上は進んでいるため、今後は、2030 年の SDGs 達成年限に向け、ステークホルダーの活動促進等を実施する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 （時点）	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
三遠南信地域における新規連携施設数（累計）	件	22	26	28	30	32	34
		(2019 年度末)	26	28	31	32	—
SDGs プラットフォーム会員による会員間交流イベント等の回数	回／年度	0	5	10	20	25	30
		(新規)	9	16	22	23	—

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【デジタル・スマートシティ推進部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

庁内情報基盤維持管理事業

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆デジタルファーストによる都市づくり

デジタル・スマートシティ推進事業

【評価】

持続可能な市民サービス提供体制の構築として、2022 年度に汎用電子システムを導入し、市民の利便性向上並びに行政運営の効率化を図るため、行政手続きのオンライン化を進めた。また、光ファイバ網整備について、2021 年度天竜区・浜名区（旧北区）における民間事業者による整備を支援した。

2021 年 3 月に「デジタル・スマートシティ構想」「浜松版 MaaS 構想」「デジタル・マーケティング戦略」の 2 構想 1 戦略を策定するとともに、2022 年 7 月には「浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例」を施行した。2020 年 4 月に設置した官民連携の推進組織である浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォームにおいて、会員間や分野間の情報共有・連携を促進するとともに、データ連携基盤のユースケースの創出を目的とした「Hamamatsu ORI-Project」等により、2023 年度までに 100 件の地域課題解決に向けた実証実験・実装を行った。また、MaaS の取組については、2023 年度に庄内地区において公共交通空白地における持続可能な地域交通として「共助型地域交通」が導入された。

【今後の方針】

引き続き、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム等を中心に、AI・ICT 等先端技術やデータ、ドローン等を活用し、官民共創により地域の課題解決や活性化を推進する。また、デジタルを活用した業務改革や行政データの可視化・分析を推進し、自治体と生産性向上とデジタル人材の育成・確保の強化を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
地域課題解決に向けた実証実験及び実装件数	件	0	7	37	75	95	115
		(新規)	27	55	75	100	-

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【総務部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

人事管理運営経費

経営改革推進事業

【評価】

2025 年度までを計画期間とする定員適正化計画の下、職員配置の適正化に努めるとともに、行政区の再編や新たな行政需要に対応するために必要な組織の整備を行った。また、浜松市行政経営推進プラン【実施計画（前期）】に掲げた取組事項の進行管理を実施するとともに、2020 年度より内部統制制度を導入するなど、組織や職員の適正化や行財政改革を着実に推進することで、持続可能な市民サービス提供体制の構築を進めることができた。

【今後の方針】

来年度から新たな基本計画や次期中期財政計画がスタートすることに合わせ、2025 年度の見直し含めた 5 か年の新たな職員定数に関する計画を策定していく。策定に当たっては、防災・減災対策、自治体 DX の推進、公共施設の整備更新や長寿命化対策のほか、定年年齢の段階的な引き上げに対応する一方、行政区再編や業務効率化による定数の見直しを行い、持続可能な都市経営を推進していく。また、浜松市行政経営推進プラン【実施計画（後期）】の進行管理を行い、行財政改革を推進するとともに、業務遂行上の重大なリスクをコントロールする内部統制に取り組み、市民から信頼される適切かつ効率的な市政運営を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【都市整備部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

公共交通推進事業

【評価】

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、公共交通の利用者数は回復しつつあるものの、コロナ禍前までは戻っていない。

【今後の方針】

引き続き、交通事業者と連携し、公共交通の利便性を向上し、利用者数増を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【環境部】

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆温室効果ガス排出削減

資源循環推進事業

【評価】

2023 年度の家庭系・事業系のもえるごみの排出量は、187,907.5t で、2019 年度 211,747.2t に対して 23,839.7t（約 11.3%）の減量となっている。事業系のもえるごみは、2023 年度 64,245.2t、2019 年度 75,429.9t（11,184.7t 減）であり、家庭系のもえるごみは、2023 年度 123,662.3t、2019 年度 136,321.3t（12,659.0t 減）となっているため、事業系・家庭系ともにもえるごみの減量が進んだ。

【今後の方針】

ごみ減量目標の達成状況や社会経済情勢を総合的に判断し、家庭ごみ有料化の実施時期を検討する。また、市民や事業者のごみ減量・資源化に関する環境意識の向上や行動変容を促進するための各種施策に取り組む。なお、プラスチックごみについては、プラスチック資源循環促進法が 2022 年 4 月 1 日に施行されたことから、製品プラスチックの扱いについて検討していく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【カーボンニュートラル推進事業本部】

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆温室効果ガス排出削減

カーボンニュートラル推進事業 スマートシティ推進事業

【評価】

浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づき、再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーの推進などを実施することにより、直近の確定値である 2020 年度の市域からの温室効果ガス排出量は 4,302.5 千 t-CO2 となり、2019 年度と比較して 111.3 千 t-CO2 が削減された。

【今後の方針】

2050 年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向け、市域一体となって、徹底した省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの最大限の導入、新技術・イノベーションの推進、二酸化炭素吸収源の確保に取り組む。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市域からの温室効果ガス 排出量	kt-CO2	4,413.8	—	4,147.3	3,991.9	3,836.5	3,681.0
		(2019 年度)	4,302.5	2025 年 1 月頃	2026 年 1 月頃	2027 年 1 月頃	—

次期総合戦略の策定の考え方について

1 次期総合戦略について

- ・ 2025 年度からの次期総合戦略については、引き続き単独で策定する。
- ・ 総合計画次期基本計画では、人口減少を大きな課題としてとらえ総合的な政策を定めていることから、次期総合戦略の政策体系は、次期基本計画の政策体系（基本政策・政策）とする。
- ・ 人口ビジョンは、関係性を分かりやすくするため、次期総合戦略に内包する。

2 名称

浜松市地方創生総合戦略

3 計画期間

2025-2029 年度（5 年間）

4 構成案

（１）人口の現状分析と将来推計人口

総合戦略の中に章立てし、人口の現状分析及び将来推計人口を記載。

①人口の現状分析

- ・ 人口減少の主な要因は「少子化」と「東京圏への若年層の人口流出」と考えられる。
- ・ 主な要因を踏まえ、人口現状分析を行う。

②将来推計人口

- ・ 将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」を基礎資料とする。
- ・ 展望人口は算出しない。
※2019 年度以降、国の人口の長期的展望が新たに示されていない。
※国の手引きによると、人口動向分析及び将来推計人口を基礎資料として地方版総合戦略を策定することが求められているが、展望人口の算出は含まれていない。

（２）地域が目指す理想像

- ・ 総合計画次期基本計画の分野別計画における、10 年後（2034 年）の理想の姿を目指す。
- ・ 「元気なまち・浜松」の実現に向けてまち・ひと・しごとの柱立てで地方創生に向けた考えや取組、方向性を文章化する。

（３）政策体系及び進捗評価

- ・ 基本計画分野別計画及び実施計画における、政策体系と指標を活用する。
- ・ 総合戦略の評価は、実施計画の評価により行う。

（４）SDGs の推進

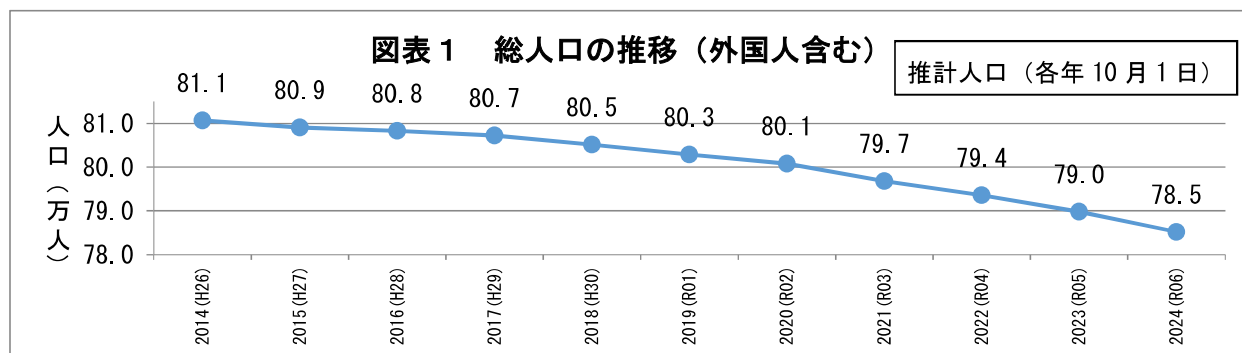
- ・ SDGs の理念や考え方、目指す SDGs のゴールを盛り込み、2030 年に向けた取組を推進する。
- ・ 総合戦略の評価である実施計画の評価を通じて SDGs の達成度評価を行う。
- ・ 次期総合戦略を国から求められている地方創生 SDGs に関する取組の計画とする。
※本市の SDGs 未来都市計画は 2024 年度が終期となっており、国から次期 SDGs 未来都市計画策定、または、2030 年までの地方創生 SDGs に関する取組の計画等を策定（他計画等に統合を含む）するよう求められている。

人口の現状について

1 本市の人口の現状

(1) 人口の変化

浜松市の総人口は、減少が続いている。



出典：浜松市統計情報「区別・町字別世帯数人口一覧表」

年齢 3 区分別に見ると、年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する。

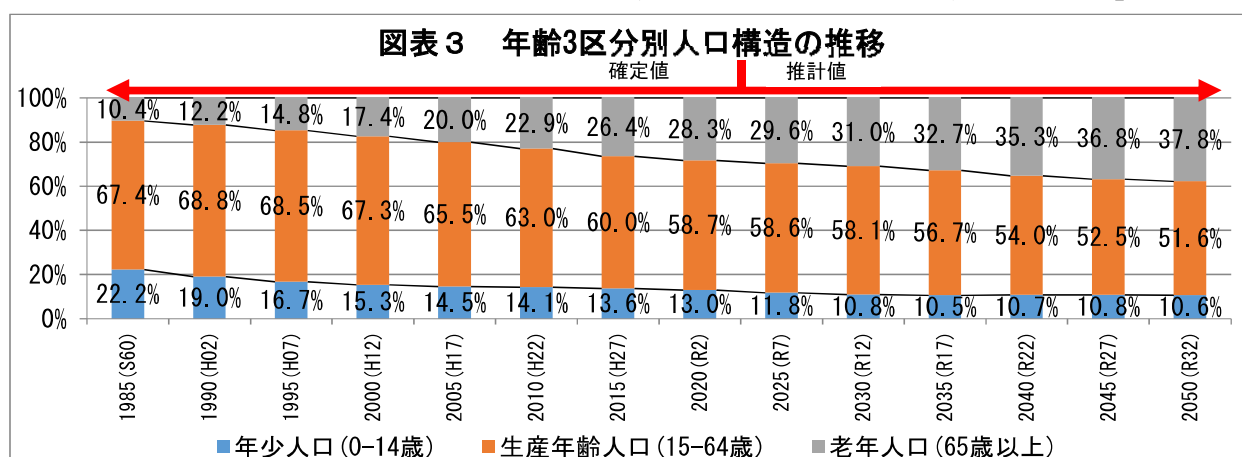
図表 2 年齢 3 区分別人口及び比率の推移

区分	1985 (S60)	1990 (H02)	1995 (H07)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)
総人口	728,300	751,509	766,832	786,306	804,032	800,866	797,980	790,718	772,254	752,174	730,724	707,669	683,036	657,052
年少人口 (0-14歳)	161,873	142,911	128,424	119,975	116,137	112,093	107,411	101,461	90,777	81,542	77,078	75,654	73,478	69,454
生産年齢人口 (15-64歳)	490,869	516,798	524,902	529,298	524,774	499,213	473,435	457,684	452,614	437,236	414,501	382,159	358,451	339,253
老年人口 (65歳以上)	75,424	91,521	113,403	136,923	160,086	181,347	208,355	220,925	228,863	233,396	239,145	249,856	251,107	248,345

出典：確定値…総務省「国勢調査」、推計値…国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」

※確定値の人口の総人口には、年齢「不詳」を含む。



出典：確定値…総務省「国勢調査」、推計値…国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」

※確定値の比率は分母から不詳を除いて算出。

(2) 人口動態の状況

①本市の人口動態（日本人及び外国人）

本市の人口動態は、2009 年以降減少傾向である。自然動態では 2011 年以降、自然減が拡大傾向で、社会動態では 2017 年以降、2021 年を除き、社会増となっている。

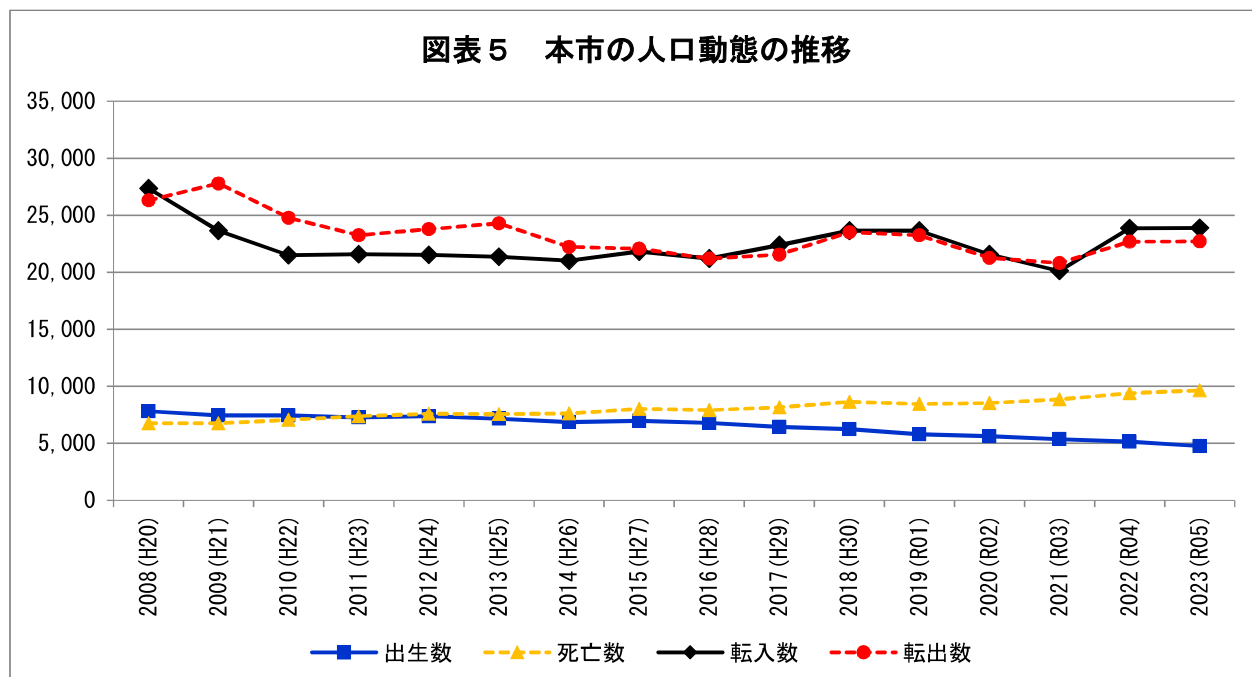
図表 4 本市の人口動態の推移（日本人及び外国人）

(人)

年 次	総人口 (1月1日現在)	自然動態			社会動態			(A) + (B)
		出生数	死亡数	自然増減 (A)	転入数	転出数	社会増減 (B)	
2008 (H20)	824,057	7,818	6,761	1,057	27,367	26,313	1,054	2,111
2009 (H21)	826,168	7,445	6,754	691	23,653	27,796	△ 4,143	△ 3,452
2010 (H22)	822,716	7,466	7,050	416	21,497	24,787	△ 3,290	△ 2,874
2011 (H23)	819,842	7,277	7,367	△ 90	21,589	23,254	△ 1,665	△ 1,755
2012 (H24)	818,089	7,380	7,599	△ 219	21,533	23,789	△ 2,256	△ 2,475
2013 (H25)	815,614	7,169	7,565	△ 396	21,376	24,309	△ 2,933	△ 3,329
2014 (H26)	812,286	6,859	7,615	△ 756	21,013	22,226	△ 1,213	△ 1,969
2015 (H27)	810,317	6,970	8,012	△ 1,042	21,821	22,069	△ 248	△ 1,290
2016 (H28)	809,027	6,783	7,914	△ 1,131	21,213	21,214	△ 1	△ 1,132
2017 (H29)	807,893	6,433	8,150	△ 1,717	22,381	21,544	837	△ 880
2018 (H30)	807,013	6,244	8,632	△ 2,388	23,663	23,508	155	△ 2,233
2019 (R01)	804,780	5,791	8,447	△ 2,656	23,640	23,237	403	△ 2,253
2020 (R02)	802,527	5,628	8,518	△ 2,890	21,589	21,260	329	△ 2,561
2021 (R03)	799,966	5,355	8,859	△ 3,504	20,122	20,813	△ 691	△ 4,195
2022 (R04)	795,771	5,143	9,397	△ 4,254	23,859	22,676	1,183	△ 3,071
2023 (R05)	792,704	4,755	9,644	△ 4,889	23,887	22,719	1,168	△ 3,721

出典：浜松市「浜松市統計書」浜松市市民生活課「人口移動調査表」

図表 5 本市の人口動態の推移



②日本人の人口動態

自然動態による影響が大きい。2010 年に減少傾向に転じ、自然動態では 2011 年以降、社会動態ではコロナ禍による影響を除き 2012 年以降減少が続いている。

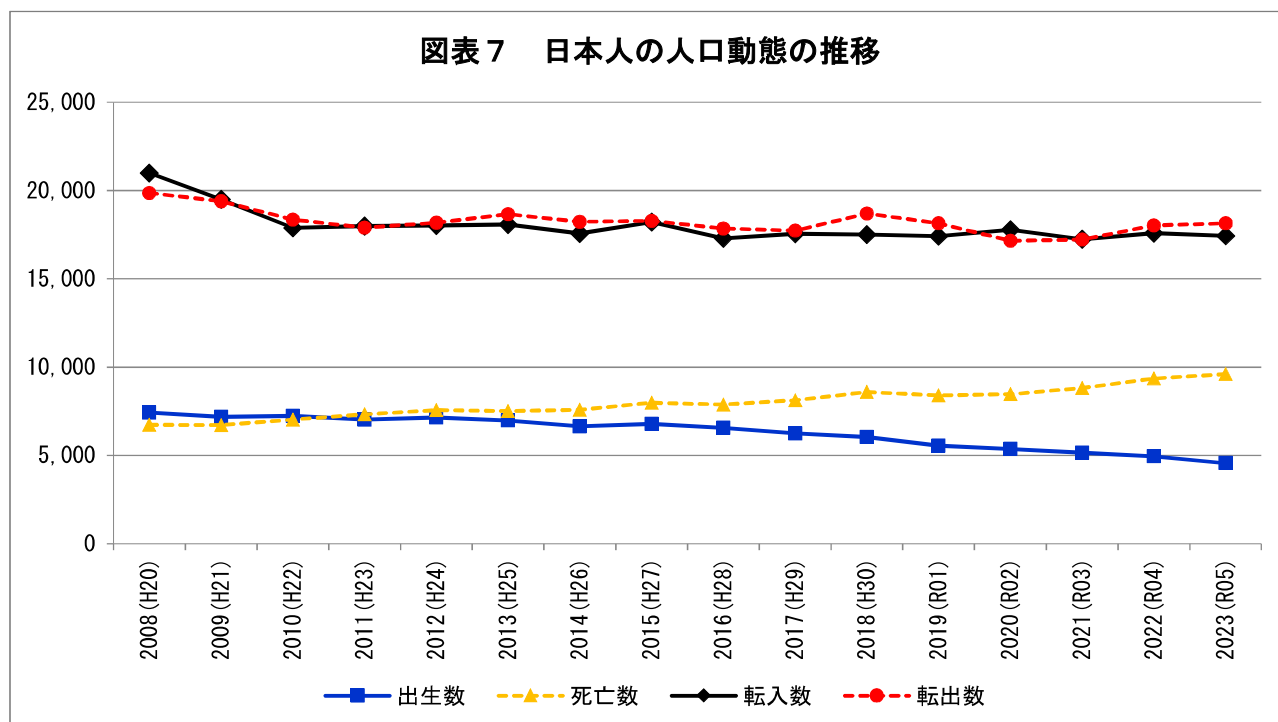
図表 6 日本人の人口動態の推移

(人)

年 次	総人口 (1月1日現在)	自然動態			社会動態			(A) + (B)
		出生数	死亡数	自然増減 (A)	転入数	転出数	社会増減 (B)	
2008 (H20)	790,785	7,429	6,730	699	20,994	19,865	1,129	1,828
2009 (H21)	792,613	7,184	6,719	465	19,498	19,399	99	564
2010 (H22)	793,177	7,227	7,019	208	17,880	18,357	△ 477	△ 269
2011 (H23)	792,908	7,025	7,325	△ 300	17,984	17,897	87	△ 213
2012 (H24)	792,697	7,143	7,563	△ 420	18,020	18,186	△ 166	△ 586
2013 (H25)	792,111	6,972	7,520	△ 548	18,068	18,673	△ 605	△ 1,153
2014 (H26)	790,959	6,645	7,588	△ 943	17,569	18,225	△ 656	△ 1,599
2015 (H27)	789,360	6,790	7,980	△ 1,190	18,214	18,291	△ 77	△ 1,267
2016 (H28)	788,093	6,558	7,879	△ 1,321	17,302	17,841	△ 539	△ 1,860
2017 (H29)	786,233	6,250	8,126	△ 1,876	17,563	17,722	△ 159	△ 2,035
2018 (H30)	784,198	6,033	8,581	△ 2,548	17,498	18,704	△ 1,206	△ 3,754
2019 (R01)	780,444	5,559	8,391	△ 2,832	17,421	18,149	△ 728	△ 3,560
2020 (R02)	776,887	5,369	8,465	△ 3,096	17,778	17,153	625	△ 2,471
2021 (R03)	774,416	5,162	8,818	△ 3,656	17,237	17,221	16	△ 3,640
2022 (R04)	770,775	4,951	9,344	△ 4,393	17,591	18,020	△ 429	△ 4,822
2023 (R05)	765,956	4,557	9,605	△ 5,048	17,440	18,145	△ 705	△ 5,753

出典：浜松市「浜松市統計書」浜松市市民生活課「人口移動調査表」

図表 7 日本人の人口動態の推移



③外国人の人口動態

社会動態による影響が大きい。2016 年以降、コロナ禍による影響を除き増加が続いている。

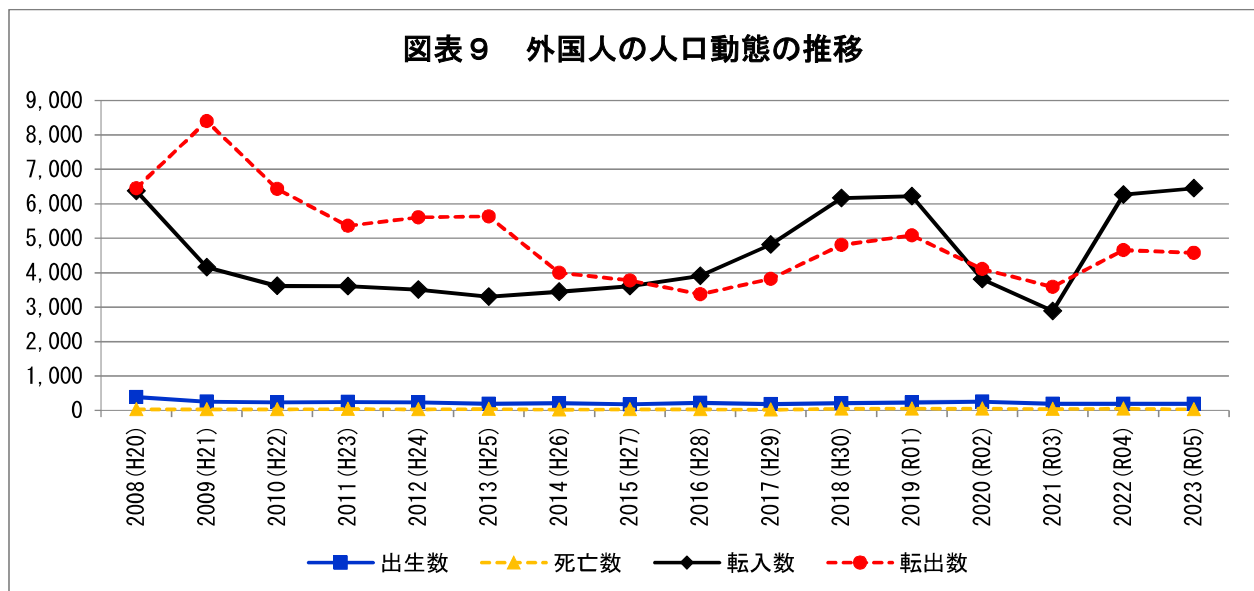
図表 8 外国人の人口動態の推移

(人)

年 次	総人口 (1月1日現在)	自然動態			社会動態			(A) + (B)
		出生数	死亡数	自然増減 (A)	転入数	転出数	社会増減 (B)	
2008 (H20)	33, 272	389	31	358	6, 373	6, 448	△ 75	283
2009 (H21)	33, 555	261	35	226	4, 155	8, 397	△ 4, 242	△ 4, 016
2010 (H22)	29, 539	238	31	207	3, 618	6, 430	△ 2, 812	△ 2, 605
2011 (H23)	26, 934	252	42	210	3, 605	5, 357	△ 1, 752	△ 1, 542
2012 (H24)	25, 392	237	36	201	3, 513	5, 603	△ 2, 090	△ 1, 889
2013 (H25)	23, 503	197	45	152	3, 308	5, 636	△ 2, 328	△ 2, 176
2014 (H26)	21, 327	214	27	187	3, 444	4, 001	△ 557	△ 370
2015 (H27)	20, 957	180	32	148	3, 607	3, 778	△ 171	△ 23
2016 (H28)	20, 934	225	35	190	3, 911	3, 375	536	726
2017 (H29)	21, 660	183	24	159	4, 818	3, 822	996	1, 155
2018 (H30)	22, 815	211	51	160	6, 165	4, 804	1, 361	1, 521
2019 (R01)	24, 336	232	56	176	6, 216	5, 085	1, 131	1, 307
2020 (R02)	25, 640	259	53	206	3, 811	4, 107	△ 296	△ 90
2021 (R03)	25, 550	193	41	152	2, 885	3, 592	△ 707	△ 555
2022 (R04)	24, 996	192	53	139	6, 268	4, 656	1, 612	1, 751
2023 (R05)	26, 748	198	39	159	6, 447	4, 574	1, 873	2, 032

出典：浜松市「浜松市統計書」浜松市市民生活課「人口移動調査表」

図表 9 外国人の人口動態の推移



※住民基本台帳及び外国人登録による。転入・転出には帰化や国籍取得、国籍離脱などによるその他の増減を含む。

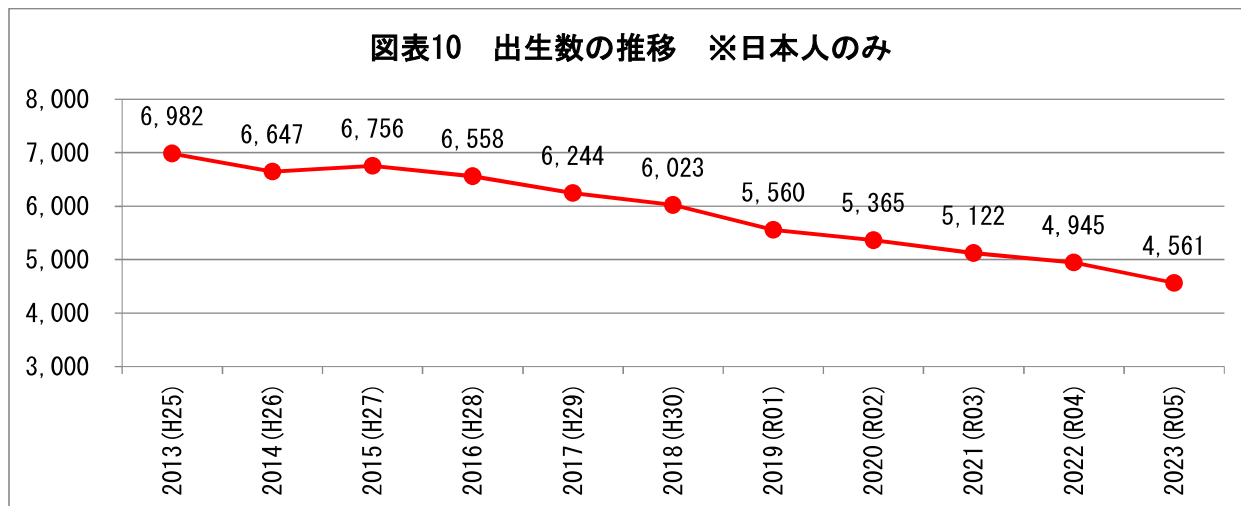
以上のように、本市の人口は、減少傾向が続いており、その主な要因と考えられる「少子化」と「東京圏への若年層の人口流出」を中心に、本市の状況を示す。

2 少子化

人口減少の進行により、年齢構造が変化しており、年少人口及び生産年齢人口の割合が大きく減少している。また、非婚化や晩産化の進行を背景とした、出生数の減少により、少子化が依然進行している。

(1) 出生数の減少

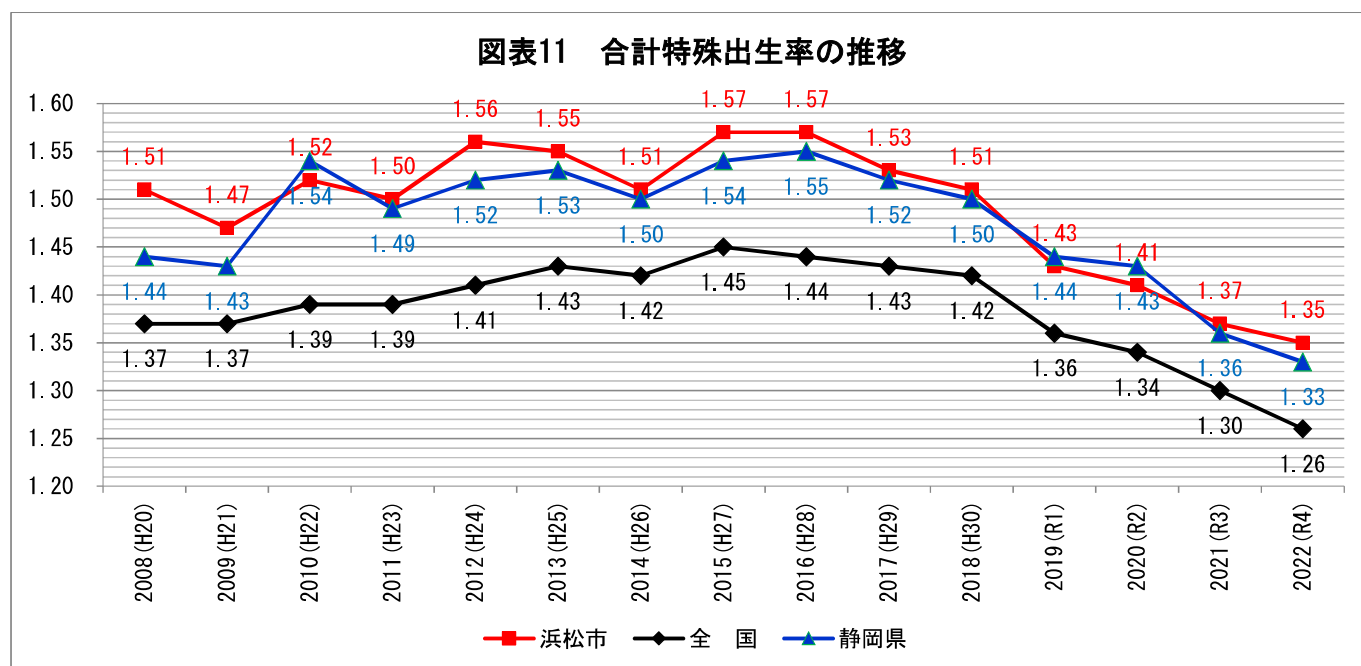
出生数は、2015 年以降減少が続いている。2023 年の出生数は、10 年前より約 30%減少している。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

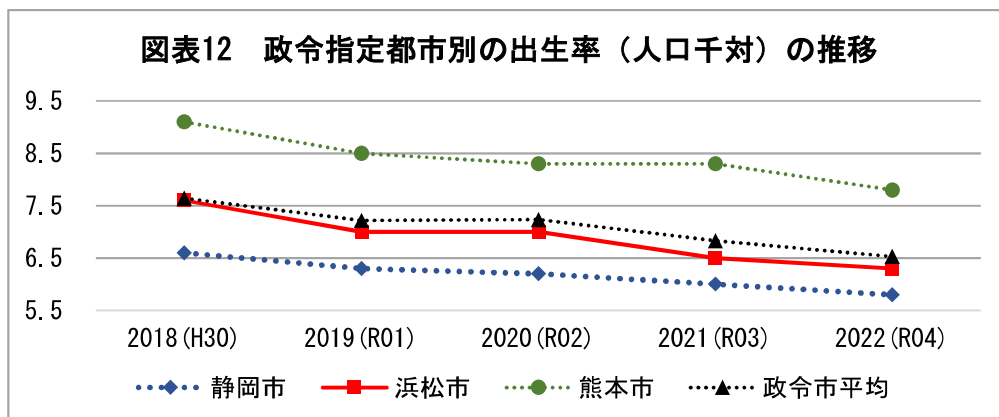
(2) 合計特殊出生率の低下

合計特殊出生率は、2015 年をピークに下降傾向にある。



出典：浜松市「浜松市保健衛生年報」

出生率は、政令指定都市全体で減少傾向にある。

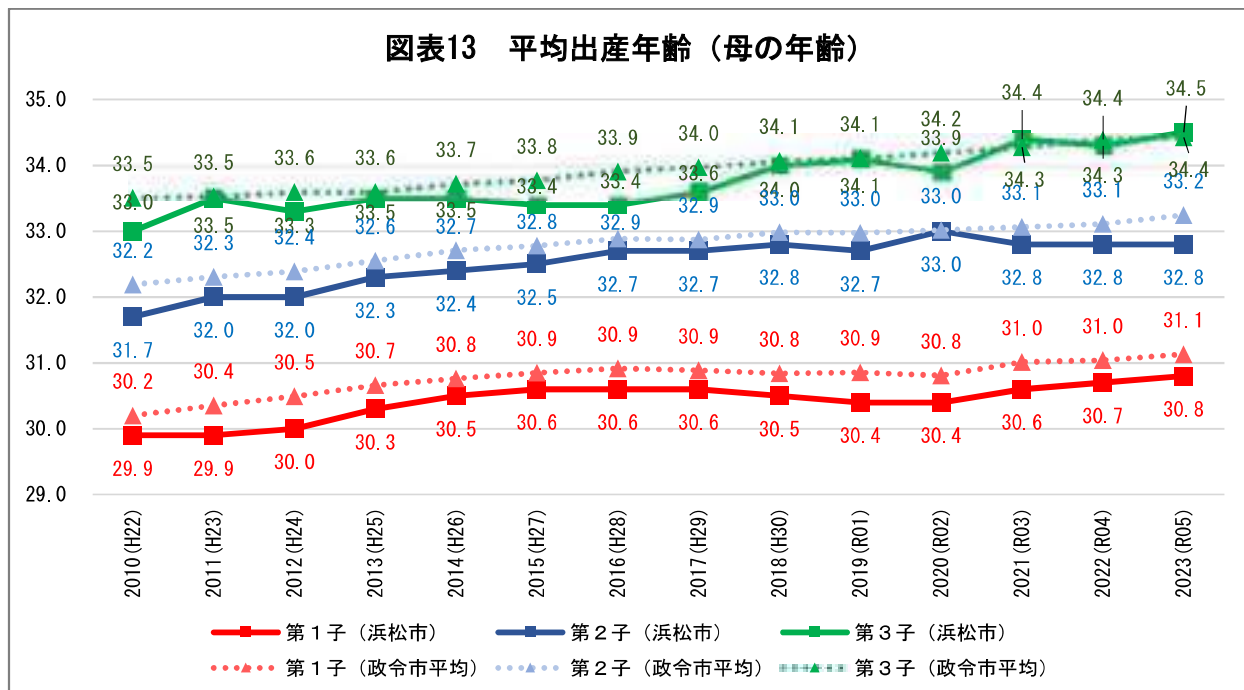


年	札幌市	仙台市	さいたま市	千葉市	横浜市	川崎市	相模原市	新潟市	静岡市	浜松市	名古屋市	京都市	大阪市	堺市	神戸市	岡山市	広島市	北九州市	福岡市	熊本市	政令市平均
2018 (H30)	6.7	7.7	7.9	6.5	7.3	8.9	6.9	7.1	6.6	7.6	8.1	6.8	7.7	7.6	6.8	8.4	8.3	7.6	8.8	9.1	7.6
2019 (R01)	6.5	7.1	7.7	6.3	6.8	8.5	6.4	6.7	6.3	7.0	7.6	6.5	7.4	7.1	6.7	7.8	7.7	7.0	8.4	8.5	7.2
2020 (R02)	6.3	7.2	7.7	6.3	6.8	8.4	6.5	6.6	6.2	7.0	7.8	6.5	7.7	7.2	6.6	7.9	7.8	7.0	8.3	8.3	7.2
2021 (R03)	6.1	6.7	7.3	6.1	6.4	7.8	6.1	6.5	6.0	6.5	7.4	6.0	7.0	6.7	6.1	7.4	7.4	6.8	7.7	8.3	6.8
2022 (R04)	5.7	6.4	7.2	5.9	6.1	7.3	5.7	6.1	5.8	6.3	7.0	5.8	6.7	6.5	5.9	7.2	7.0	6.4	7.5	7.8	6.5
2023 (R05)	5.3	6.0	7.0	5.7	5.9	7.1	5.3	5.7	5.3	5.8	6.7	5.3	6.4	6.3	5.7	6.8	6.6	6.0	7.1	7.2	6.2

出典：厚生労働省「人口動態統計」

（３）晩産化の進行

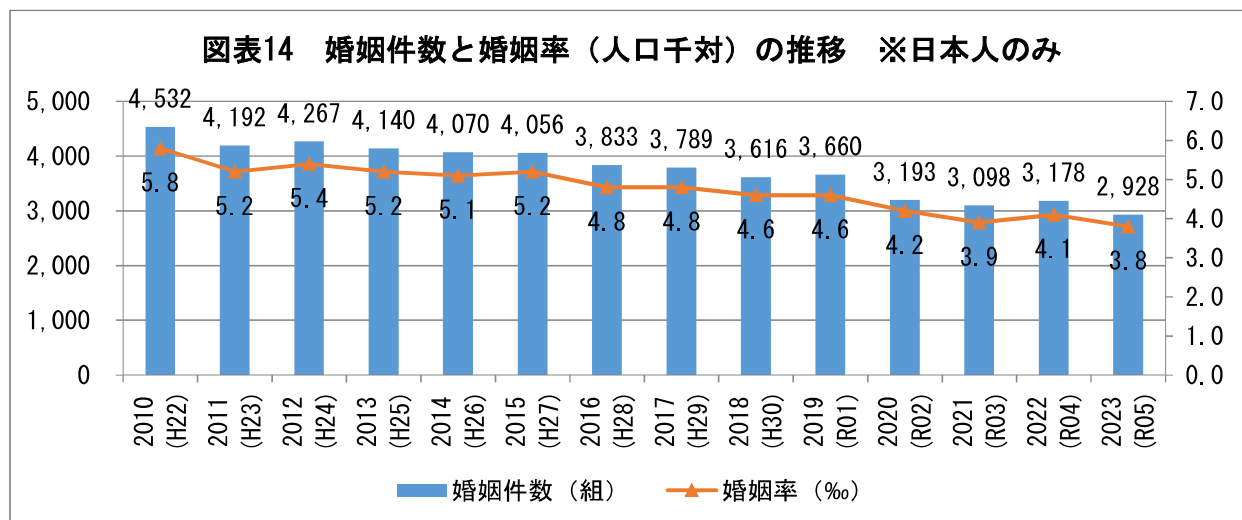
浜松市の第１，２子の平均出産年齢は、2010年から2014年までは上昇傾向だったが、2015年以降は若干上昇傾向にある。第３子の平均出産年齢は、2015年以降上昇傾向である。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

(4) 非婚化の進行

婚姻件数は大きく減少している。2023 年の婚姻件数は、10 年前より約 30%減少している。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

政令指定都市で比較すると、いずれも婚姻件数は減少しており、特に 2015 から 2020 年の婚姻件数の減少率は、浜松市が最も高い。

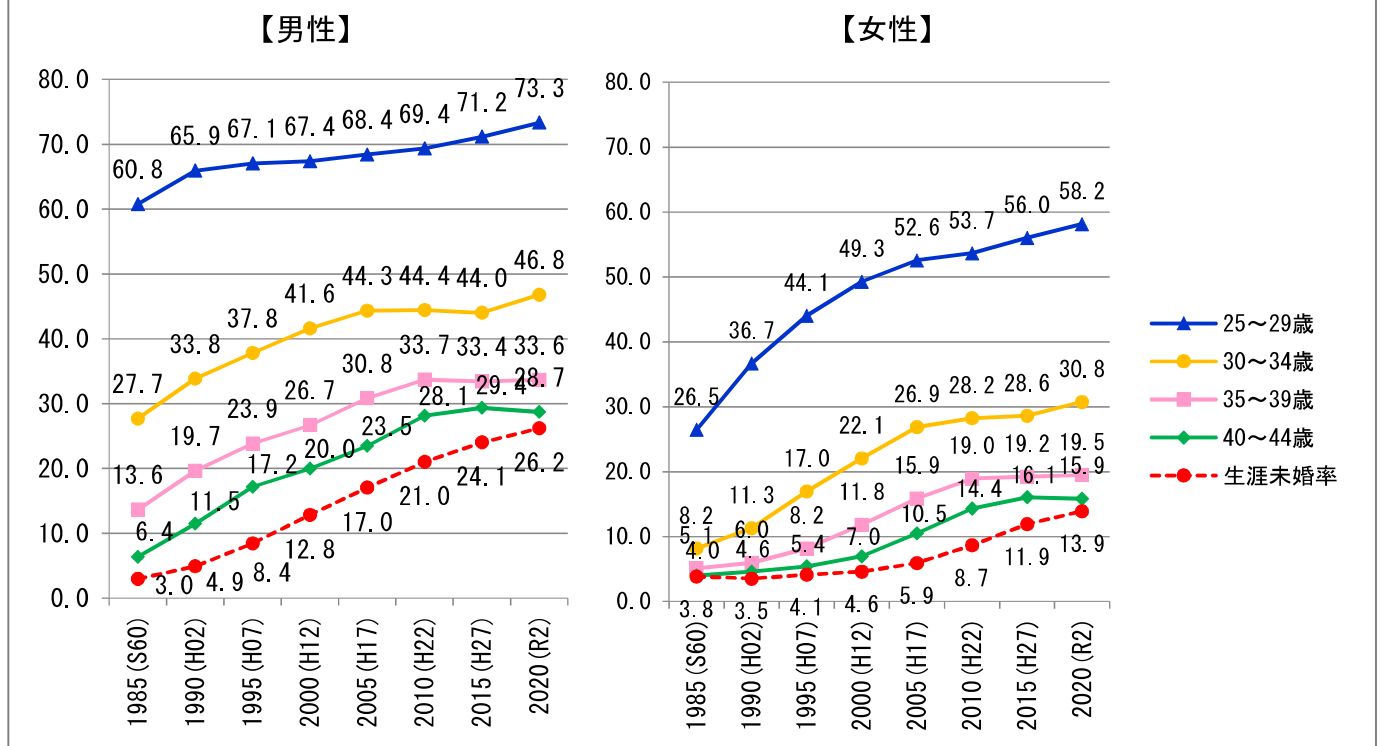
図表 15 婚姻件数と人口 1,000 人あたりの婚姻件数（左）、婚姻件数の増減（右）

	2010 (H22)		2015 (H27)		2020 (R2)		2020 順	2010→2015		2015→2020	
	婚姻件数	人口1,000人あたり	婚姻件数	人口1,000人あたり	婚姻件数	人口1,000人あたり		増減数	変化率	増減数	変化率
札幌市	11,522	6.0	10,800	5.6	9,131	4.7	6	△ 722	-6.3%	△ 1,669	-15.5%
仙台市	6,323	6.1	6,019	5.6	5,025	4.6	8	△ 304	-4.8%	△ 994	-16.5%
さいたま市	7,286	6.0	6,692	5.4	5,999	4.6	8	△ 594	-8.2%	△ 693	-10.4%
千葉市	5,459	5.8	4,626	4.8	3,959	4.2	15	△ 833	-15.3%	△ 667	-14.4%
横浜市	22,305	6.1	19,634	5.4	16,100	4.4	11	△ 2,671	-12.0%	△ 3,534	-18.0%
川崎市	10,828	7.7	10,324	7.1	8,761	5.9	2	△ 504	-4.7%	△ 1,563	-15.1%
相模原市	4,129	5.8	3,434	4.8	2,880	4.1	18	△ 695	-16.8%	△ 554	-16.1%
新潟市	4,173	5.2	3,670	4.6	3,100	4.0	19	△ 503	-12.1%	△ 570	-15.5%
静岡市	3,891	5.5	3,369	4.8	2,735	4.0	19	△ 522	-13.4%	△ 634	-18.8%
浜松市	4,532	5.8	4,056	5.2	3,193	4.2	15	△ 476	-10.5%	△ 863	-21.3%
名古屋市	14,523	6.6	13,731	6.1	12,431	5.5	3	△ 792	-5.5%	△ 1,300	-9.5%
京都市	8,141	5.7	7,702	5.3	6,270	4.4	11	△ 439	-5.4%	△ 1,432	-18.6%
大阪市	18,762	7.3	17,717	6.8	16,262	6.2	1	△ 1,045	-5.6%	△ 1,455	-8.2%
堺市	4,784	5.7	4,225	5.1	3,568	4.4	11	△ 559	-11.7%	△ 657	-15.6%
神戸市	8,395	5.6	7,542	5.0	6,251	4.2	15	△ 853	-10.2%	△ 1,291	-17.1%
岡山市	4,071	5.8	3,866	5.4	3,413	4.8	5	△ 205	-5.0%	△ 453	-11.7%
広島市	6,953	6.0	6,366	5.4	5,581	4.7	6	△ 587	-8.4%	△ 785	-12.3%
北九州市	5,429	5.6	4,989	5.2	4,069	4.4	11	△ 440	-8.1%	△ 920	-18.4%
福岡市	10,198	7.1	9,903	6.5	8,678	5.5	3	△ 295	-2.9%	△ 1,225	-12.4%
熊本市			3,954	5.4	3,386	4.6	8			△ 568	-14.4%
政令市平均	8,511	6.1	7,631	5.5	6,540	4.7		△ 880	-10.3%	△ 1,091	-14.3%

出典：厚生労働省「人口動態統計」

ほぼすべての年代において、男女ともに未婚率が上昇している。

図表 16 年齢階級別未婚率（男女別）



出典：総務省「国勢調査」

一方で、平均初婚年齢は、政令指定都市で比較すると、女性は低い。

図表 17 男女別平均初婚年齢の推移

男性								女性							
	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2023 順		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2022 順
札幌市	31.4	31.4	31.2	30.9	31.2	31.4	6	札幌市	30.1	30.0	29.8	29.9	30.1	30.1	6
仙台市	31.0	31.1	31.1	31.0	30.9	31.1	12	仙台市	29.7	29.7	29.9	29.8	29.8	29.9	11
さいたま市	31.4	31.7	31.4	31.3	31.3	31.5	5	さいたま市	29.8	29.8	29.8	29.7	29.7	30.1	6
千葉市	31.4	31.8	31.6	31.4	31.5	31.6	4	千葉市	29.5	29.6	29.8	29.7	29.8	30.1	6
横浜市	31.7	31.9	31.7	31.7	31.9	31.9	2	横浜市	30.0	30.2	29.9	30.1	30.2	30.3	2
川崎市	31.9	31.8	31.6	31.6	31.6	31.7	3	川崎市	30.2	30.1	29.9	30.2	30.3	30.4	1
相模原市	31.6	31.7	31.4	31.7	31.7	32.0	1	相模原市	29.6	29.5	29.6	29.8	29.8	30.2	3
新潟市	31.2	30.9	31.1	30.8	31.0	31.0	13	新潟市	29.5	29.4	29.4	29.6	29.7	29.7	12
静岡市	31.0	31.3	31.0	31.1	31.2	31.0	13	静岡市	29.2	29.6	29.4	29.5	29.6	29.7	12
浜松市	31.1	31.0	31.1	30.8	30.8	30.9	15	浜松市	29.4	29.1	29.2	29.2	29.1	29.2	19
名古屋市	31.4	31.4	31.3	31.1	31.1	31.4	6	名古屋市	29.3	29.4	29.5	29.4	29.5	29.7	12
京都市	31.7	31.4	31.5	31.3	31.4	31.4	6	京都市	30.2	29.9	29.9	29.9	30.1	30.2	3
大阪市	31.5	31.5	31.2	31.2	31.3	31.2	9	大阪市	29.9	29.9	29.8	29.8	29.9	30.0	9
堺市	30.7	30.5	30.6	30.5	30.8	30.7	16	堺市	29.4	29.4	29.2	29.2	29.4	29.4	16
神戸市	31.2	31.1	31.2	31.1	31.4	31.2	9	神戸市	29.8	29.7	29.8	29.8	30.0	30.0	9
岡山市	30.3	30.4	30.3	30.3	30.3	30.3	19	岡山市	28.9	29.1	28.7	29.0	29.1	29.3	18
広島市	30.5	30.4	30.5	30.2	30.6	30.3	19	広島市	29.2	29.2	29.3	29.0	29.3	29.1	20
北九州市	30.3	30.6	30.3	30.3	30.3	30.5	17	北九州市	29.0	29.3	29.2	28.9	29.3	29.4	16
福岡市	31.4	31.4	31.1	31.1	31.4	31.2	9	福岡市	29.9	30.1	29.9	29.8	30.2	30.2	3
熊本市	30.5	30.5	30.1	30.3	30.7	30.4	18	熊本市	29.2	29.3	29.1	29.2	29.5	29.5	15
政令市平均	31.2	31.2	31.1	31.0	31.1	31.1		政令市平均	29.6	29.6	29.6	29.6	29.7	29.8	

出典：厚生労働省「人口動態統計」

3 東京圏への若年層の人口流出

若年層（15～29 歳）は、東京圏へ多く転出したまま戻ってきていない。

（1）若年層の人口流出

転出超過が続いており、15 歳～29 歳の若年層の転出超過が続いている。特に、男性は 15～19 歳、女性は 15～24 歳の転出超過が多い。

図表 18 全国への 5 歳階級別の人口移動の推移 ※日本人のみ

区分	総数						男性						女性					
	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)
総数	△ 1,291	△ 854	△ 233	△ 192	△ 299	△ 498	△ 589	△ 376	32	△ 99	28	△ 258	△ 702	△ 478	△ 265	△ 93	△ 327	△ 240
0～4歳	△ 225	△ 24	△ 48	△ 53	△ 35	△ 23	△ 183	△ 8	△ 23	△ 35	△ 15	△ 34	△ 42	△ 16	△ 25	△ 18	△ 20	11
5～9歳	△ 83	△ 64	5	49	△ 69	△ 75	△ 22	△ 46	△ 29	30	△ 50	△ 46	△ 61	△ 18	34	19	△ 19	△ 29
10～14歳	△ 20	△ 10	△ 35	17	△ 20	△ 1	△ 15	9	△ 26	4	△ 7	△ 16	△ 5	△ 19	△ 9	13	△ 13	15
15～19歳	△ 497	△ 462	△ 400	△ 564	△ 513	△ 478	△ 292	△ 229	△ 216	△ 358	△ 248	△ 240	△ 205	△ 233	△ 184	△ 206	△ 265	△ 238
20～24歳	△ 222	△ 146	△ 159	△ 35	6	△ 74	20	20	110	118	199	76	△ 242	△ 166	△ 269	△ 153	△ 193	△ 150
25～29歳	△ 20	△ 134	△ 37	67	△ 18	△ 7	50	△ 86	67	△ 14	△ 1	5	△ 70	△ 48	△ 104	81	△ 17	△ 12
30～34歳	△ 56	△ 50	90	△ 51	80	44	△ 16	△ 38	49	7	7	24	△ 40	△ 12	41	△ 58	73	20
35～39歳	△ 100	△ 44	93	66	32	△ 32	△ 61	△ 39	20	50	△ 4	△ 45	△ 39	△ 5	73	16	36	13
40～44歳	△ 88	△ 30	△ 5	△ 21	△ 16	△ 67	△ 60	△ 6	△ 11	△ 32	△ 47	△ 22	△ 28	△ 24	6	11	31	△ 45
45～49歳	△ 107	△ 34	31	△ 5	40	27	△ 44	△ 21	10	△ 6	29	△ 20	△ 63	△ 13	21	1	11	47
50～54歳	△ 13	4	50	7	22	△ 5	△ 13	2	40	△ 7	35	5	0	2	10	14	△ 13	△ 10
55～59歳	37	9	△ 40	21	7	△ 36	26	17	△ 60	7	5	△ 43	11	△ 8	20	14	2	7
60歳以上	103	131	222	310	185	229	21	49	101	137	125	98	82	82	121	173	60	131

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

地域別に見ると、東京圏への転出超過数が多い。

図表 19 地域別人口移動の推移 ※日本人のみ

年次	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
総数	△ 1,291	△ 854	△ 233	△ 192	△ 299	△ 498
北海道	15	12	△ 33	△ 51	△ 30	△ 31
東北	△ 37	△ 34	20	△ 15	△ 16	△ 26
北関東	△ 52	46	△ 1	△ 9	57	76
東京圏	△ 1,282	△ 1,444	△ 934	△ 885	△ 979	△ 1,245
中部	331	537	818	458	623	615
(うち静岡県)	(640)	(668)	(950)	(477)	(652)	(734)
関西	△ 250	△ 43	△ 222	△ 56	△ 171	△ 191
中国・四国	128	208	217	383	219	278
九州・沖縄	△ 144	△ 136	△ 98	△ 17	△ 2	26

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

東京圏との人口移動は、転出超過の状況が続いており、年齢階層別に見ると、特に 15 歳以上 29 歳以下の若年層は男女ともに転出超過が大きい。特に 20～24 歳女性の転出超過数が多い。

図表 20 東京圏との 5 歳階級別の人口移動の状況（日本人のみ）

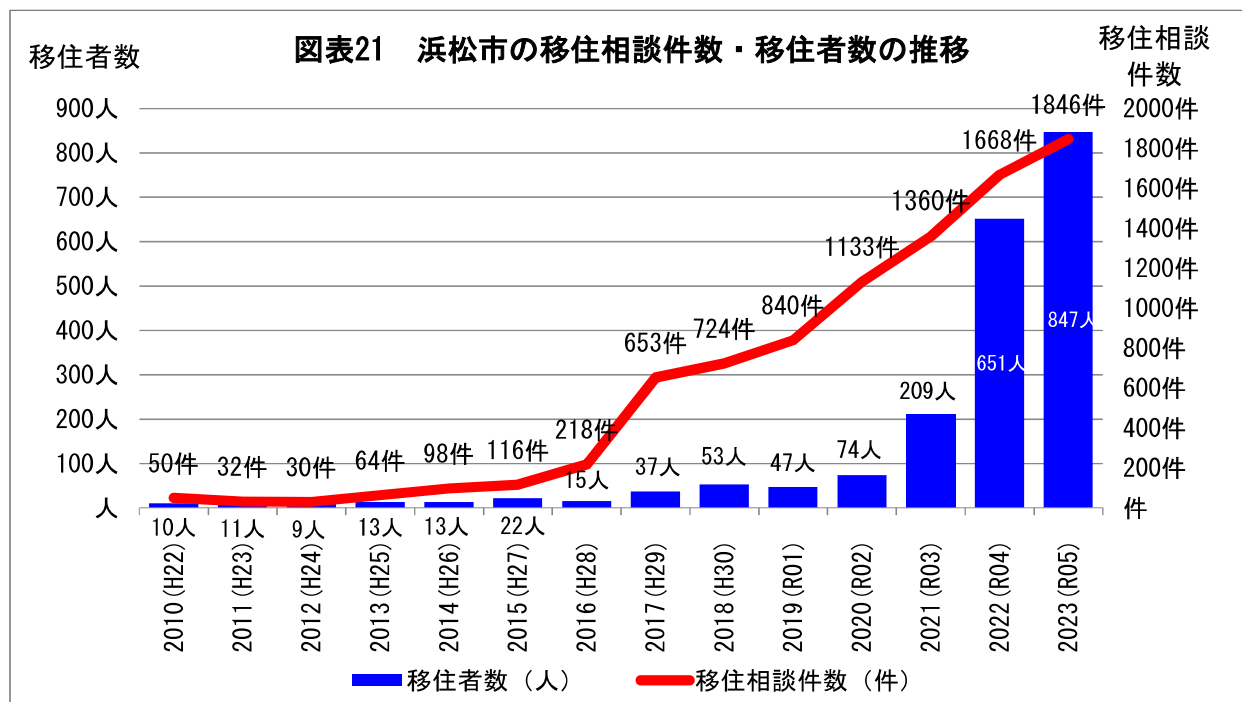
(人)

区 分	総 数						男 性						女 性					
	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
総 数	△ 1,282	△ 1,444	△ 934	△ 885	△ 979	△ 1,245	△ 535	△ 597	△ 386	△ 319	△ 409	△ 592	△ 747	△ 847	△ 548	△ 566	△ 570	△ 653
0～ 4歳	△ 8	8	19	△ 7	32	15	△ 16	11	△ 7	△ 6	19	5	8	△ 3	26	△ 1	13	10
5～ 9歳	△ 45	△ 20	10	△ 15	△ 4	△ 27	△ 15	△ 13	4	△ 7	6	△ 19	△ 30	△ 7	6	△ 8	△ 10	△ 8
10～14歳	△ 37	△ 26	△ 18	△ 14	△ 19	△ 6	△ 18	△ 7	△ 12	△ 7	△ 20	△ 7	△ 19	△ 19	△ 6	△ 7	1	1
15～19歳	△ 283	△ 239	△ 198	△ 292	△ 236	△ 269	△ 126	△ 88	△ 77	△ 131	△ 75	△ 104	△ 157	△ 151	△ 121	△ 161	△ 161	△ 165
20～24歳	△ 559	△ 651	△ 623	△ 559	△ 581	△ 627	△ 191	△ 242	△ 210	△ 174	△ 207	△ 244	△ 368	△ 409	△ 413	△ 385	△ 374	△ 383
25～29歳	△ 245	△ 271	△ 225	△ 155	△ 260	△ 280	△ 127	△ 147	△ 121	△ 103	△ 163	△ 173	△ 118	△ 124	△ 104	△ 52	△ 97	△ 107
30～34歳	△ 58	△ 102	△ 6	△ 4	△ 44	△ 37	△ 37	△ 67	△ 17	19	△ 45	△ 40	△ 21	△ 35	11	△ 23	1	3
35～39歳	△ 33	△ 36	23	1	28	△ 15	△ 7	△ 20	13	9	△ 10	△ 4	△ 26	△ 16	10	△ 8	38	△ 11
40～44歳	△ 45	△ 18	13	10	△ 2	△ 22	△ 26	△ 6	5	△ 2	△ 6	△ 9	△ 19	△ 12	8	12	4	△ 13
45～49歳	△ 25	△ 47	△ 2	△ 4	△ 13	△ 10	△ 8	△ 23	△ 5	△ 2	△ 2	△ 8	△ 17	△ 24	3	△ 2	△ 11	△ 2
50～54歳	△ 17	△ 15	12	25	24	△ 4	△ 15	△ 4	11	3	22	△ 4	△ 2	△ 11	1	22	2	0
55～59歳	17	△ 1	5	31	30	△ 28	11	12	△ 15	21	20	△ 30	6	△ 13	20	10	10	2
60～64歳	31	5	32	43	22	16	19	10	23	23	14	15	12	△ 5	9	20	8	1
65～69歳	24	△ 13	26	25	16	32	14	△ 7	11	18	11	24	10	△ 6	15	7	5	8
70～74歳	6	2	0	17	11	10	5	1	7	12	11	6	1	1	△ 7	5	0	4
75～79歳	10	△ 3	3	5	17	5	9	△ 3	△ 2	1	11	4	1	0	5	4	6	1
80～84歳	△ 1	△ 6	3	11	△ 2	9	△ 1	5	4	6	2	0	0	△ 11	△ 1	5	△ 4	9
85～89歳	△ 6	△ 4	△ 5	△ 1	1	△ 4	△ 1	△ 4	2	0	3	△ 3	△ 5	0	△ 7	△ 1	△ 2	△ 1
90歳以上	△ 8	△ 7	△ 3	△ 2	1	△ 3	△ 5	△ 5	0	1	0	△ 1	△ 3	△ 2	△ 3	△ 3	1	△ 2

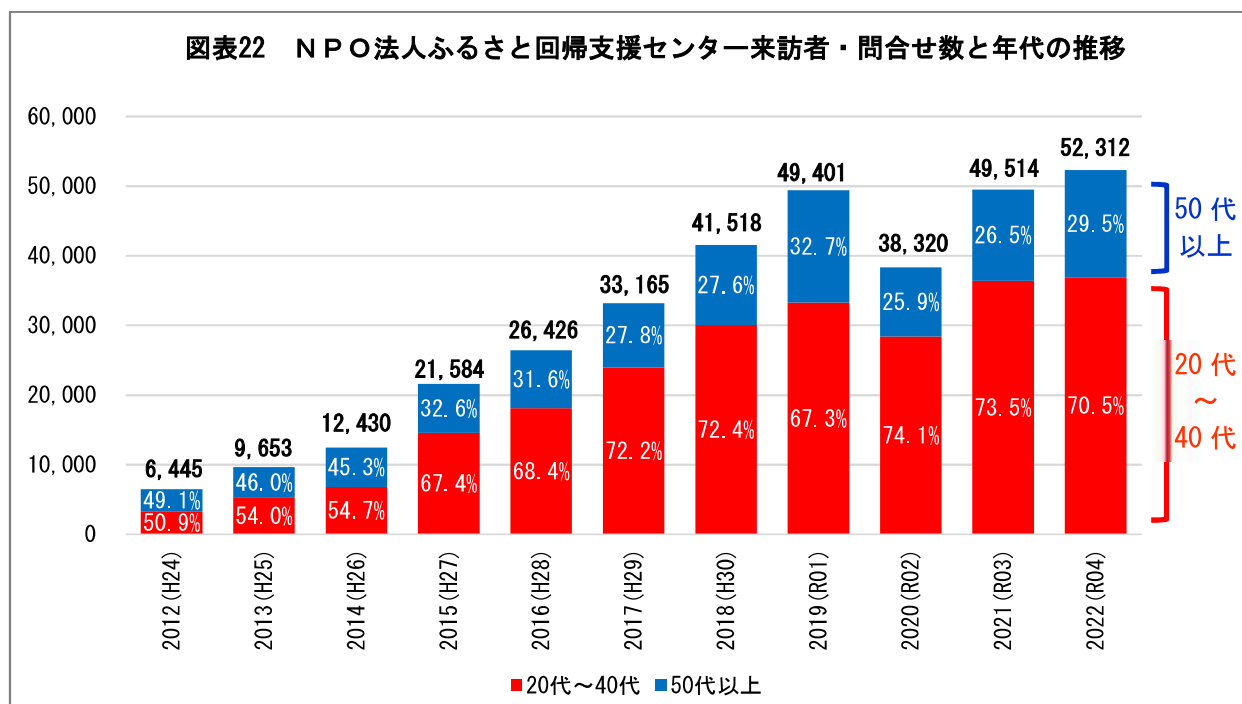
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

（参考）移住

本市の相談件数は10年間（2014年度～2023年度）で約20倍に増加。コロナ禍以降で激増。移住者数は10年間で65倍以上に増加。



全国の移住者は年々増加し、20～40代の移住者割合が高くなっている。



4 将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」によると、本市の将来推計人口は、2020年の790,718人から2050年には657,052人まで減少する。

図表 23 男女別将来推計人口

年	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)
人口(人)	790,718	772,254	752,174	730,724	707,669	683,036	657,052

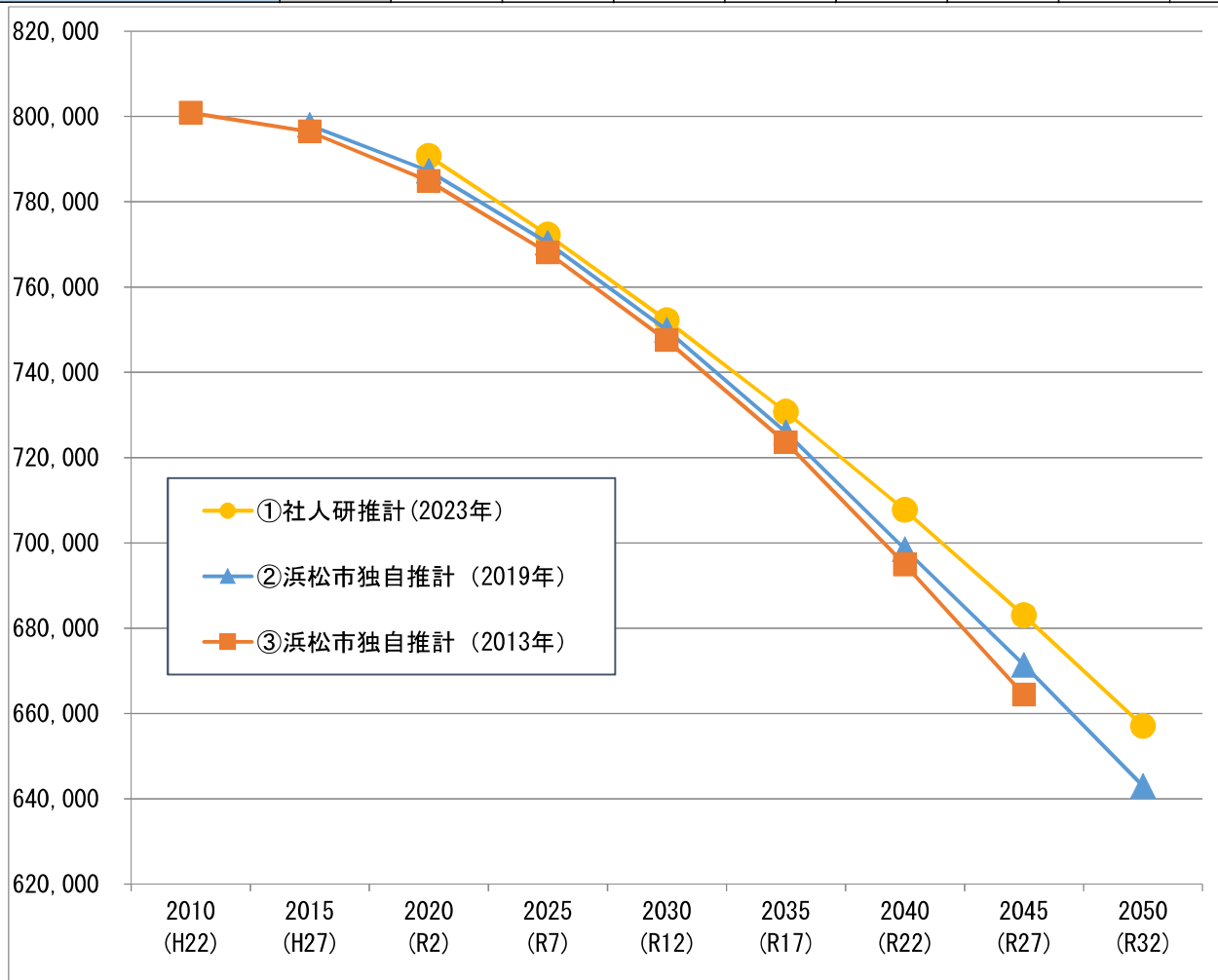
年	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)
男							
計	392,900	383,761	373,430	362,381	350,710	338,467	325,659
0-4歳	15,688	13,432	13,099	13,038	12,660	11,942	10,952
5-9歳	17,996	15,458	13,374	13,065	13,030	12,678	11,967
10-14歳	18,876	17,992	15,496	13,414	13,105	13,076	12,723
15-19歳	19,211	17,925	17,085	14,738	12,760	12,457	12,418
20-24歳	18,907	18,899	17,660	16,812	14,639	12,708	12,370
25-29歳	19,795	21,743	21,459	20,309	19,391	16,993	14,752
30-34歳	21,799	19,845	21,725	21,409	20,387	19,498	17,132
35-39歳	24,518	21,693	19,773	21,671	21,331	20,385	19,517
40-44歳	27,045	24,214	21,505	19,650	21,507	21,148	20,249
45-49歳	31,615	26,534	23,890	21,236	19,402	21,283	20,920
50-54歳	27,871	31,165	26,138	23,563	20,960	19,164	21,064
55-59歳	25,591	27,301	30,529	25,628	23,132	20,594	18,855
60-64歳	24,335	24,818	26,504	29,664	24,932	22,545	20,094
65-69歳	25,322	23,315	23,852	25,558	28,674	24,146	21,884
70-74歳	26,979	23,528	21,762	22,377	24,068	27,078	22,873
75-79歳	19,906	24,185	21,222	19,753	20,442	22,108	24,954
80-84歳	14,604	16,346	20,333	17,918	16,864	17,633	19,249
85歳以上	12,842	15,368	18,024	22,578	23,426	23,031	23,686
女							
計	397,818	388,493	378,744	368,343	356,959	344,569	331,393
0-4歳	14,538	12,777	12,463	12,403	12,043	11,362	10,418
5-9歳	16,807	14,397	12,731	12,433	12,385	12,034	11,360
10-14歳	17,832	16,721	14,379	12,725	12,431	12,386	12,034
15-19歳	17,460	16,852	15,836	13,632	12,065	11,783	11,731
20-24歳	16,807	16,633	16,184	15,206	13,104	11,662	11,352
25-29歳	17,499	18,710	18,506	18,017	16,975	14,580	13,068
30-34歳	19,834	17,637	19,016	18,812	18,314	17,294	14,813
35-39歳	23,244	19,839	17,656	19,097	18,908	18,452	17,445
40-44歳	25,772	23,213	19,892	17,715	19,173	18,973	18,525
45-49歳	30,136	25,608	23,119	19,823	17,659	19,149	18,938
50-54歳	26,309	29,888	25,457	22,998	19,728	17,589	19,101
55-59歳	24,392	25,977	29,574	25,208	22,795	19,569	17,470
60-64歳	23,804	24,120	25,728	29,313	24,997	22,625	19,439
65-69歳	25,570	23,272	23,609	25,222	28,767	24,565	22,260
70-74歳	28,869	24,884	22,660	23,048	24,677	28,173	24,099
75-79歳	23,496	27,486	23,789	21,739	22,178	23,821	27,236
80-84歳	19,111	21,191	25,149	21,819	20,075	20,604	22,260
85歳以上	26,338	29,288	32,996	39,133	40,685	39,948	39,844

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

図表 24 過去の将来推計人口

(人)

年	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)
①社人研推計(2023年) 【期間：2020-2050】 ※今回の社人研推計			790,718	772,254	752,174	730,724	707,669	683,036	657,052
②浜松市独自推計(2019年) 【期間：2015-2060】		797,980	787,227	770,377	749,919	725,919	698,518	671,371	643,013
③浜松市独自推計(2013年) 【期間：2010-2045】	800,866	796,490	784,867	768,049	747,511	723,542	694,887	664,406	



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

若者からの意見収集について

2024 年に実施した「浜松市若年層アンケート調査」及び市内 6 大学の「市内在住大学生との意見交換」から、人口減少に関連が深い項目について若者の意見の概要をまとめた。

1 実施概要

(1) 浜松市若年層アンケート調査（参考資料 1）

目 的：若年層の市政に対する関心・ニーズなどを把握し、今後の市政運営の参考とするとともに、市政への関心を深めてもらうきっかけとする。（広聴広報課実施）

対 象：満 15 歳～24 歳の市民 3,000 人（無作為抽出）

期 間：2024 年 7 月 29 日（月）～8 月 26 日（月）

方 法：調査票郵送法（調査票返送または Web 回答）

回答状況：回答数：1,021 件（郵送 350 件 Web671 件）

回 答 率：34%

調査結果の公開：浜松市公式ホームページへ 12 月中旬頃公開予定

(2) 市内在住大学生との意見交換（参考資料 2）

目 的：市内居住の大学生から東京一極集中や地域への愛着、少子化など、人口減少に関する若者の意識について率直な意見を収集する。（企画課実施）

対 象：市内 6 大学に通う学生（浜松市在住）

期 間：2024 年 8 月 23 日（金）～9 月 17 日（火）のうち大学ごとに実施

方 法：対面

参加人数：39 名

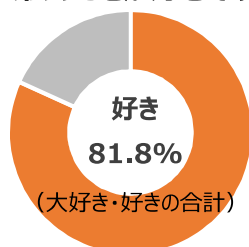
2 主な意見

浜松への愛着について

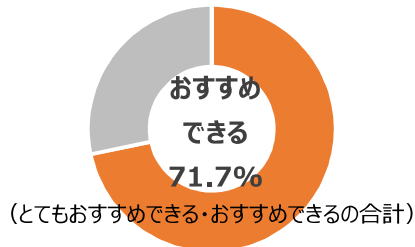
- ✓ 浜松市への愛着は強く、他者に対してもおすすめできていると感じている。
（「好き」が 81.8%、「おすすめできる」が 71.7%）
- ✓ 都市としてのバランスの良さ、人間関係、豊かな自然環境に魅力を感じている。

【浜松市若年層アンケート調査】

浜松のことが好きですか



浜松を誰かに、どの程度すすめたいと思いますか



【市内在住大学生の意見】

■居住場所として選んだ理由や浜松市の良いところ

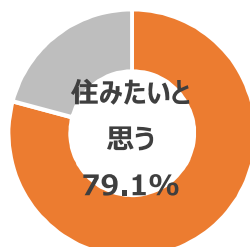
- ・田舎すぎず、都会すぎずバランスが良く、住みやすい環境である。
- ・人間関係や地域の中でコミュニティが築けており、維持したい。
- ・自然環境に恵まれており、暮らしやすく、豊かな自然に触れ合うことができる。

浜松への居住について

- ✓ 住み慣れていることや、愛着があり、これからも浜松市に住みたいと感じている。
（「住みたいと思う」が79.1%）
- ✓ しかし、交通の便、仕事、遊ぶ場所など、浜松では感じにくい都会ならではの豊富な選択肢への希望やあこがれが強いと、浜松市以外を居住地域として選択する。

【浜松市若年層アンケート調査】

これからも浜松に住みたいと思いますか



【住みたいと思う理由 TOP3】

- ①住み慣れているから
- ②浜松に愛着があるから
- ③家族の近くで暮らしたいから

【住みたいと思わない理由 TOP3】

- ①都会に住みたいから
- ②希望する就職先がないから
- ③休日などに遊ぶ場所が充実していないから

【市内在住大学生の意見】

■住み続けるために必要だと思うことや市の問題点

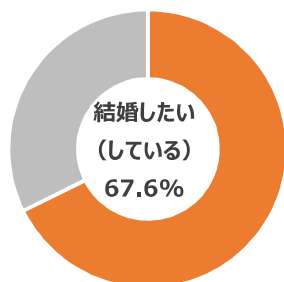
- ・市内の交通の便が悪く、移動がしづらい。
- ・自分の能力や大学で学んだことが活かせる仕事や環境。
- ・大学進学時に、市内に幅広い選択肢。

結婚について

- ✓ 結婚の意向を持っている若者は多い。
（「すでに結婚している」や「いずれは結婚したい」が67.6%）
- ✓ 仕事や収入によって左右され、また、仕事の希望を含む自己実現について、ハードルだと捉えている。

【浜松市若年層アンケート調査】

自身の結婚について、どのように考えていますか



【人数の内訳】

すでに結婚している	2.6%
いずれは結婚したい	65.0%
結婚するつもりはない	9.4%

【市内在住大学生の意見】

■結婚についての考え方

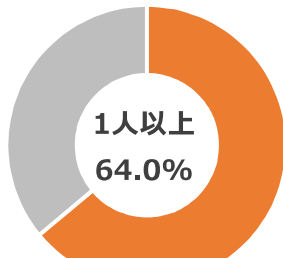
- ・家庭についての印象や考えによって結婚希望に影響がある。
- ・仕事や収入によって結婚の希望は、左右される。
- ・自己実現にとって、リスクやネガティブな要素だと考えている。

こどもについて

- ✓ こどもを持つ意向を持っている若者は多い。
(考えている子供の人数は「1人以上」が64.0%)
- ✓ 安心して産み育てられる環境を含めて、こどもを持つことへの不安がある。

【浜松市若年層アンケート調査】

考えている子供の人数は何人ですか



(1人・2人・3人以上の合計)

【人数の内訳】

0人 (子供を望まない)	12.1%
1人	8.2%
2人	45.1%
3人以上	10.7%

【市内在住大学生の意見】

■こどもを持つことについての考え方

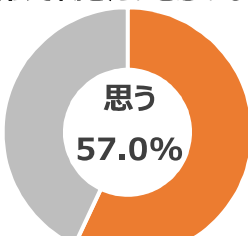
- ・ こどもを持つことの責任の大きさやこどもの将来を心配している。
- ・ こども安心して産み、育てるための環境整備が必要である。

仕事について

- ✓ 半数以上が浜松で働きたいと思っているが、希望就職先が不足していると感じている。
(「働きたいと思う」は57.0%、「希望する就職先がある」は41.0%)
- ✓ 自身が働きたいと思う就職先がないことで、若者が東京圏に流出してしまう。

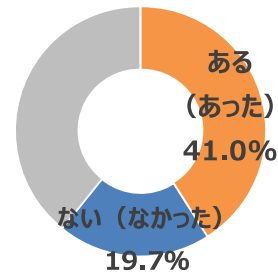
【浜松市若年層アンケート調査】

浜松で働きたいと思いますか



(思う・どちらかといえば思うの合計)

希望する就職先は浜松にありますか (ありました) か



希望する (希望していた) 業種 (上位 5 件)

項目	回答数 (件)	割合 (%)
医療・福祉	213	20.9
製造業	168	16.5
分からない	162	15.9
教育、学習支援業	130	12.7
公務	111	10.9

希望する (希望していた) 職種 (上位 5 件)

項目	回答数 (件)	割合 (%)
技術職	233	22.8
介護、福祉、医療、看護	199	19.5
事務、管理職※	172	16.8
専門職	148	14.5
分からない	144	14.1

※管理職とは、管理系の職種を指す。

【市内在住大学生の意見】

■若者が東京圏に行き、戻ってこない理由

- ・ 自身がやりたい仕事や魅力的な企業が東京圏にある。
- ・ 都会へのあこがれ、情報量や経験できることが豊富であるから。

まとめ

➤ 少子化に関して

自身の結婚について、「いずれは結婚したい」と回答した人が 65.0%あることや、考えているこどもの人数を「1人以上」と回答した人が 64.0%であることから、結婚やこどもを持つ意向を持つ若者は一定数いる。

しかし、意見交換では、結婚や出産、子育てに関して金銭的・時間的・精神的な余裕がないといった意見や、保育環境や金銭的なサポート体制の充実などを希望する意見もあることから、切れ目のない支援により不安が解消され、結婚、出産の希望がかなう環境の整備が重要と考えられる。

➤ 東京圏への流出について

浜松に通いたいと思える大学や専門学校が「ない」と回答した人は 48.4%で、「ある」と回答した人 33.4%に対し 15 ポイント上回っていることから、進学に伴い市外に転出する状況が生じていると推察される。

希望する就職先が浜松に「ない」と回答した人が 19.7%いることから、市外での就職を選択する若者が一定数いると考えられる。

また、意見交換では、やりたい事が見つかっていない人が、何か見つかるのかもしれないと期待して情報量や人との出会いの機会が多い東京圏へ行くのではないかと意見があった。

これらのことから、就職に関する情報の発信を強化するなど、若者が働きたいと思える仕事を見つけることができる機会を増やすことが重要である。

➤ 浜松への愛着について

浜松のことが「大好き・好き」と回答した人は 81.8%いることや、人間関係や地域のコミュニティを維持したいという意見があるなど、浜松に愛着をもつ若者が一定数いると考えられる。

また、これからも浜松に住みたいと「思う」と回答した人が 79.1%で、その理由の上位 3 位は、「住み慣れているから」「浜松に愛着があるから」「家族の近くで暮らしたいから」となっている。

一方で、浜松に住みたいと「思わない」と回答した人の理由の上位 3 位は、「都会に住みたいから」「希望する就職先がないから」「休日などに遊ぶ場所が充実していないから」となっている。

浜松を将来の居住地の候補として考えてもらうためには、地域への愛着が重要な要素であり、若者が浜松ならではの魅力に気づき発見する機会を設けることで、さらなる愛着の醸成を図っていく必要がある。

「地方創生10年の取組と今後の推進方向」の概要

令和6年6月10日
内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
内閣府地方創生推進事務局

資料4-1

前文

- ▶ 本年（2024年）は、地方創生の取組が本格的に始まってから10年の節目を迎える。
- ▶ 地域によっては人口増加等をしているところもあり、この中には地方創生の取組の成果と言えるものが一定数あると評価できる。
- ▶ しかしながら、国全体で見たときに人口減少や東京圏への一極集中などの大きな流れを変えるには至っておらず、地方が厳しい状況にあることを重く受け止める必要。人口減少や東京圏への過度な一極集中を是正するための対策は、我が国全体で戦略的に挑戦すべき課題であり、離島等における我が国領域等への影響といった危機感も持ちながら、「自然減」「社会減」それぞれの要因に応じて適切な対策を講じていく必要がある。さらに、人口減少等が大きな社会課題となっている諸外国の取組も踏まえることが有効。
- ▶ 地方創生に関する目標は、その達成状況等を踏まえ、目標年次などを変更しつつ、デジタルの活用も含めて施策の改善も図ってきたところであり、今後も時宜を捉えた対応が求められる。
- ▶ 小規模な自治体をはじめ、国によるきめ細かな支援を行いつつ、国民との信頼と対話の中で、地方創生に関する国民的な議論を展開していくことにより、人口減少や東京圏への一極集中等に関する認識を国民の間で広く共有しつつ、一人ひとりの多様な幸せ（well-being）につながる施策を推進していくことが求められる。

地方創生10年の取組・成果

- ・ 地方創生に関する地域の関係者の意識・行動の高まり
- ・ 各自治体による主体的な取組の推進（財政支援、人材支援、情報支援の活用）
- ・ 地方移住への関心の高まり、移住者数の増加
- ・ 人口に係る一定の成果 等

残された課題、新たな課題と今後求められる取組方向

(1)東京圏への過度な一極集中への対応

- ➡ 地方移住、企業の地方移転、地方大学・高校の魅力向上に加え、女性・若者にとって魅力的な地域づくりや、その他、男女間・地域間の賃金格差など、東京圏への過度な一極集中をもたらした諸要因を踏まえた検討、中枢中核都市等におけるゲートウェイ機能の向上、防災・減災、国土強靱化の取組の強化、分散型国づくり等との連携など

(2)少子化への対応

- ➡ 結婚や子どもを持ちたい希望をかなえるための政策を、特に未婚者を多く抱える大都市も含め、スピード感をもって実行、社会全体で子ども・子育て世帯を応援していく気運を高めていくための社会の意識醸成など

(3)地域の生産年齢人口の減少への対応

- ➡ 仕事と子育ての両立が可能な働き方の確立、高齢者や障害者も安心して働くことができる雇用環境の整備、多様性のある共生社会の実現に向けた検討など

(4)地域資源を生かし、付加価値を高める産業・事業の創出

- ➡ 地域資源の掘り起こし等に必要な生産者や中小企業に対するサポート、産業活性化と拠点施設等の一体的な整備による地域の稼ぐ力の向上、地域経済の内発的な活性化、海外製造業を含めた国内投資の促進に向けた関連インフラを含めた総合的な支援など

(5)地域における日常生活の持続可能性の低下などへの対応

- ➡ デジタルの活用や官民連携による日常生活に必要なインフラ・サービス（交通支援、買物支援、オンライン診療等）の強化、デジタル行財政改革との連携など

(6)都市部と地方との連携機会の拡大

- ➡ 農山漁村等での体験活動、地方における定住人口や交流人口の増加に向けた取組の推進、デジタルも活用した関係人口の増加に向けた取組の推進など

(7)大規模災害被害からの創造的復興に向けた貢献

- ➡ 能登半島の被災地におけるデジタルライフラインの整備など

(8)地方創生の取組に悩みを抱える自治体へのきめ細やかな支援

- ➡ オンラインも活用した自治体への人材支援、小規模自治体など伴走支援を必要とする自治体に対し、地方支分部局を含め、関係府省庁が連携したサポートの推進など

(9)地方創生の取組を加速化・深化するデジタル活用の更なる拡大

- ➡ 自治体のデジタル実装の質的向上、国と地方の実装の役割分担（作り込みから使いこなし）、デジタル実装の優良事例の掘り起こしとサービス／システムのカatalog化による発注コスト低減・横展開、環境や循環経済の効果可視化、障害者等に優しいコミュニケーション支援など

(10)地域・社会課題の解決に向けた規制・制度改革

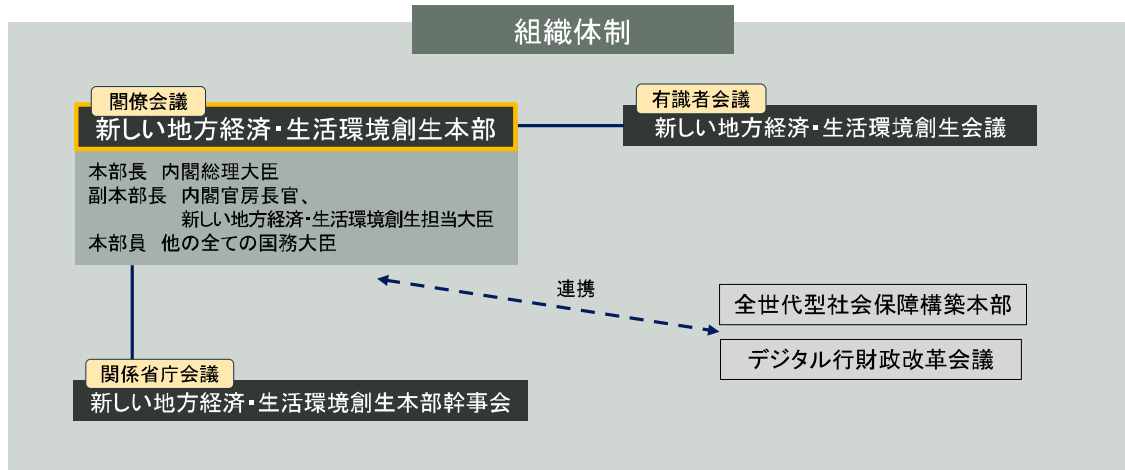
- ➡ 国家戦略特区の取組の推進と成果の全国展開、地理的に離れた自治体が連携して共通の課題に取り組む「連携“絆”特区」の推進など

最後に

- ・ 人口減少に歯止めをかけ、東京圏への過度な一極集中を是正する目標の実現に向け、諸外国の取組も参考にしながら、我が国全体で戦略的に挑戦するとともに、人口減少下においても、希望を持って住み続けることができる持続可能な地域づくりを進めるため、従来の取組を超える新たな発想に基づく施策を検討・実行していくことで、一人ひとりの多様な幸せ（well-being）を実現する社会を目指すことが重要。
- ・ 今後、自治体、有識者をはじめ、国民との信頼と対話の中で、地方創生の推進に関する国民的な議論を展開し、人口減少や東京圏への一極集中等に関する認識を国民の間で広く共有しつつ、施策の検証や優良事例の横展開などを推進することで、それぞれの自治体が主体的に行う地方創生の取組を強力に後押ししていく。

新しい地方経済・生活環境創生本部（新地方創生本部）について

- ・「地方こそ成長の主役」との発想に基づき、地方がそれぞれの特性に応じた発展を遂げることができるよう、日本経済成長の起爆剤としての大規模な地方創生策を講ずるため、内閣に、新しい地方経済・生活環境創生本部が設置された。
- ・まずは、今後10年間集中的に取り組む「基本構想」の策定に向けて議論を進める。



今後のスケジュール

- 11月8日 第1回新しい地方経済・生活環境創生本部
- 12月末 「基本的な考え方」決定

新しい地方経済・生活環境創生本部（新地方創生本部）について

地方創生2.0の趣旨

- 都市も地方も、安心・安全で心豊かに暮らせる持続可能な地域経済社会を創るため、これまでの成果と反省を活かし、地方創生2.0として再起動させ、人口減少対策につなげる。
- 国は、国でなければできないこと、国として挑戦せねばならぬことに取り組む。省庁の縦割りを排し、各省連携して施策を「統合化」、「重点化」して推進する。
- 地方は、「産官学金労言」から成る地域のステークホルダーが知恵を出し合い、他の地域の好事例も学びつつ、自主的・主体的に取り組む。

「基本的な考え方」のポイント

- 「基本的な考え方」として、以下の5点を年末に向けて検討。
 - (1) 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
 - (2) 東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散
 - (3) 付加価値創出型の新しい地方経済の創生
 - (4) デジタル・新技術の徹底活用
 - (5) 「産官学金労言」のステークホルダーの連携など、国民的な機運の向上

2024 年度第 1 回浜松市 “やらまいか” 総合戦略推進会議について

1 日時

2024 年 11 月 14 日（木）午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分
（浜松市役所本館 5 階 庁議室）

2 次第

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| （１）開会 | （４）議事 |
| （２）市長あいさつ | ①2023 年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） |
| （３）委員自己紹介 | ②第 2 期総合戦略の評価について |
| | ③次期総合戦略について |
| | ④意見交換 |
| | （５）国の動向について |
| | （６）閉会 |

3 委員

分野	No.	所属	役職	氏名	備考
産	1	浜松商工会議所	副会頭	いしかわ まさひろ 石川 雅洋	
	2	浜松パワーフード学会	会長	あきもと けんいち 秋元 健一	
	3	浜松市スタートアップ戦略推進協議会	委員	ふきの ごう 吹野 豪	欠席
官	4	浜松市	浜松市長	なかの ゆうすけ 中野 祐介	座長
学	5	国立大学法人 静岡大学	情報学部長	さきはら めぐみ 笹原 恵	オンライン
	6	公立大学法人静岡文化芸術大学	文化政策学部 文化政策学科 准教授	こばやし よしえ 小林 淑恵	
金	7	株式会社静岡銀行	地域共創戦略担当部長	なぐら ひでき 名倉 秀樹	
	8	浜松いわた信用金庫	営業店統括部 営業店支援室推進役	すずき まゆみ 鈴木 真由美	
労	9	浜松市労働教育協議会	委員	おおはし たいすけ 大橋 泰介	
言	10	株式会社中日新聞社 東海本社	取締役東海本社代表	てらもと せいじ 寺本 政司	
	11	株式会社静岡新聞社・ 静岡放送株式会社	執行役員 浜松総局長	いとう みつひろ 伊藤 充宏	
民	12	浜松市自治会連合会	総務部会委員	すずき よしじ 鈴木 芳次	
士	13	静岡県社会保険労務士会 浜松支部	支部長	やまむら たかひろ 山村 隆浩	
他	14	社会福祉法人聖隷福祉事業団	理事／常務執行役員／ 人事企画部長	かまた ゆうこ 鎌田 裕子	

4 委員からの主な意見

◆結婚・出産・子育てについて

- 結婚をしたい人は7割いる中で、実際に婚活を行っている人は2〜3割に留まっている。アプリやイベント実施など本人が動く機会や場を作るとよい。
- 少子化については、子育て世帯の支援策だけでなく、こども自身が喜ぶような施策が必要。のびのびとしたこどもの姿を見た大人が、こどもを持つと考え、また、地域でこどもを支えようと思っていくのではないかな。
- こどもの数が減り、浜松まつりや子ども会などの地域の活動にも影響が出てきている。
- 全国的に地方から東京への流出は女性が多くなっており、進学時より就職時の方が流出が多い。性別による役割や結婚観などの古い価値観に若者が閉塞感を感じているのではないかな。地域全体の意識改革が必要。
- 子育て世帯ではこども2人が多い。3人目のこどもを持つ家庭へのインセンティブを作れるとよい。
- 放課後児童会の定員確保が必要。また放課後児童会に預けられなかった人向けの緊急受け入れ施設を創設するなど、女性が働き続けることができるような取組の検討が必要ではないかな。

◆若者について

- 高校生に対して、市内の中小企業など魅力ある就職先を知ることができる機会が必要。高校生と企業が連携したワークショップ等の取組が始まっているので、行政も関わっていけるとよい。
- 若者が、リスクをとってチャレンジしやすいまちになるとよい。例えば、音楽の都としての特徴を生かすことや、研究人材などが活躍できる場を作るなど浜松ではチャンスがあると思えるまちづくりを行ってはどうか。
- 働きたい企業での就職やキャリア形成・スキルアップを図るために東京に行きたい若者がいる一方で、地元に住み続けたいと思う若者がいる。サテライト勤務ができるパートナー企業を増やすことで、浜松に居ながら希望する仕事ができ、その先に家庭、こどもを持つという人が増えていくとよい。
- 東京へあこがれを持って行く人は多いが、一方で東京に疲れて帰って来たいという若者も一定数いる。そういった若者をターゲットにすることも考えられる。

◆仕事について

- 市内の老舗の飲食店や商店が人口減少やコロナ禍の影響により廃業または撤退している。まちの魅力が失われ、特に若者が市外に出て行ってしまっている。
- 市内の大手企業は、県外からも多くの人材を採用できているが、中小企業は人材確保に苦労をしている。中小企業にある魅力を発信し、県外からの就職を増やすような取組が必要。
- 女性や外国人、障がい者などそれぞれが働きやすい環境の整備が必要。

◆まちの魅力について

- 富裕層シニアをターゲットに、浜松に住んでもらうことで経済が潤う。市外への流出を止めることは難しいため、外から浜松へ入ってくる人を増やすようなコンテンツ作りもあっていいのではないかな。
- 新卒採用者から、企業に魅力があって浜松に来たが、遊ぶ場所が少ないという声を聞いた。まちなかの活性化をしてほしい。
- 働き方改革により余暇の時間が増えているので、雇用の確保だけでなく、多様な価値観から一層まちの魅力を高める必要がある。働く場所とまちの魅力は両輪である。
- 公共交通のつながりが悪く、公共交通機関や徒歩等で目的地に行くことが不便なため車移動が多くなり、結果的に事故も多くなっているのではないかな。
- 各主体が人口減少に対してそれぞれが取り組んでいるが、メディアでの発信も大事。足並みをそろえて浜松の魅力発信が必要。
- 人口減少の転換だけではなく、人口減少を前提とした施策検討も必要。

浜松市若年層アンケート調査の結果（速報値）概要について

1 調査概要

◇目的

若年層の市政に対する関心・ニーズなどを把握し、今後の市政運営の参考とするとともに、市政への関心を深めてもらうきっかけとする。（広聴広報課実施）

◇対象

満 15 歳～24 歳の市民 3,000 人（無作為抽出）

◇期間

2024 年 7 月 29 日（月）～8 月 26 日（月）

◇方法

調査票郵送法（調査票返送または Web 回答）

◇回答状況

回答数：1,021 件（郵送 350 件 Web671 件）

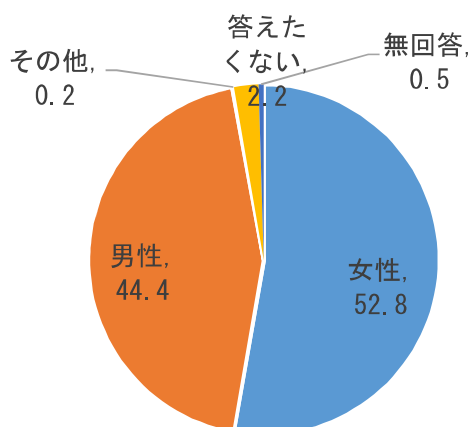
回答率：34%

◇調査結果の公開

浜松市公式ホームページへ 12 月中旬頃公開予定

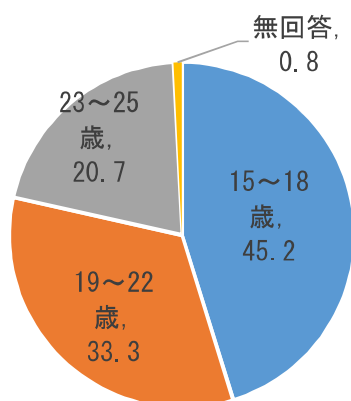
2 回答者の属性

◆性別



項目	回答数 (件)	割合 (%)
女性	539	52.8
男性	453	44.4
その他	2	0.2
答えたかない	22	2.2
無回答	5	0.5

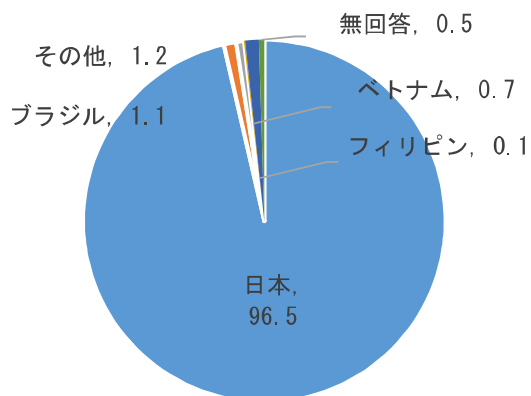
◆年齢



項目	回答数 (件)	割合 (%)
15～18 歳	462	45.2
19～22 歳	340	33.3
23～25 歳	211	20.7
無回答	8	0.8

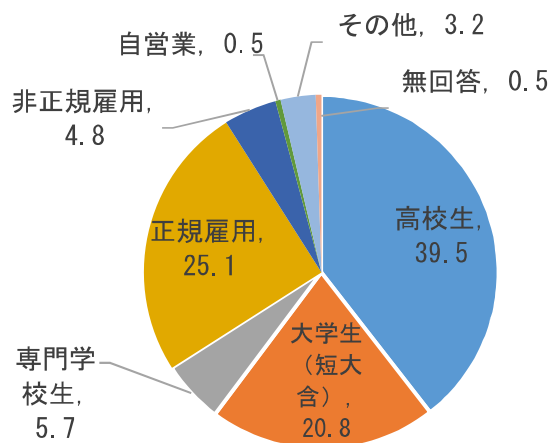
※6 月 1 日時点の年齢での抽出のため、
回答時点で 25 歳の方が含まれます

◆国籍・地域



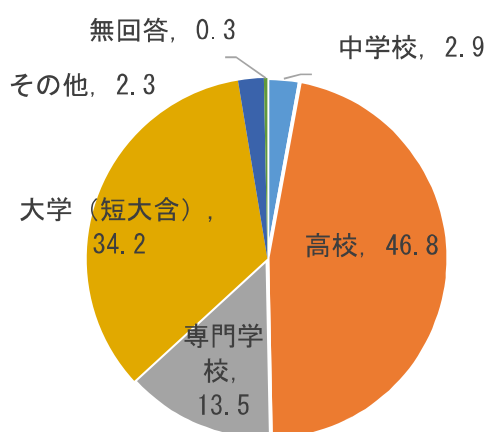
項目	回答数 (件)	割合 (%)
日本	985	96.5
ブラジル	11	1.1
ベトナム	7	0.7
フィリピン	1	0.1
その他	12	1.2
無回答	5	0.5

◆職業



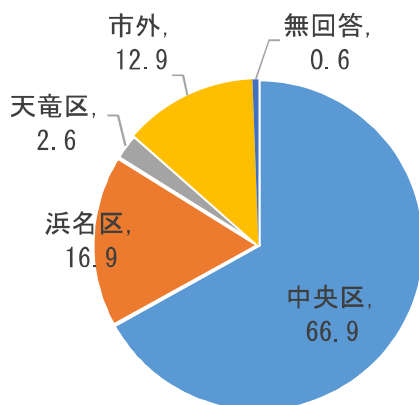
項目	回答数 (件)	割合 (%)
高校生	403	39.5
大学生（短大含）	212	20.8
専門学校生	58	5.7
正規雇用	256	25.1
非正規雇用	49	4.8
自営業	5	0.5
その他	33	3.2
無回答	5	0.5

◆最終学歴



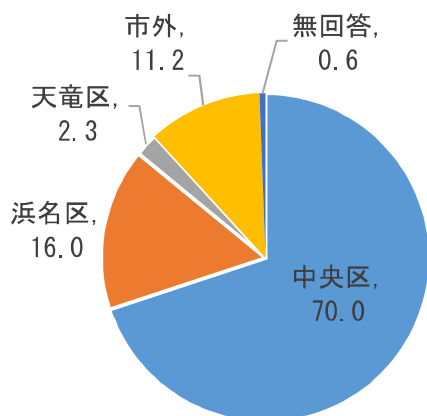
項目	回答数 (件)	割合 (%)
中学校	9	2.9
高校	145	46.8
専門学校	42	13.5
大学（短大含）	106	34.2
その他	7	2.3
無回答	1	0.3

◆出身地



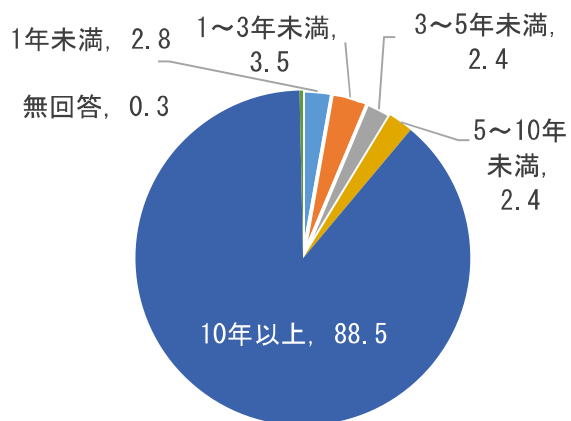
項目	回答数 (件)	割合 (%)
中央区	683	66.9
浜名区	173	16.9
天竜区	27	2.6
市外	132	12.9
無回答	6	0.6

◆現在の居住地



項目	回答数 (件)	割合 (%)
中央区	715	70.0
浜名区	163	16.0
天竜区	23	2.3
市外	114	11.2
無回答	6	0.6

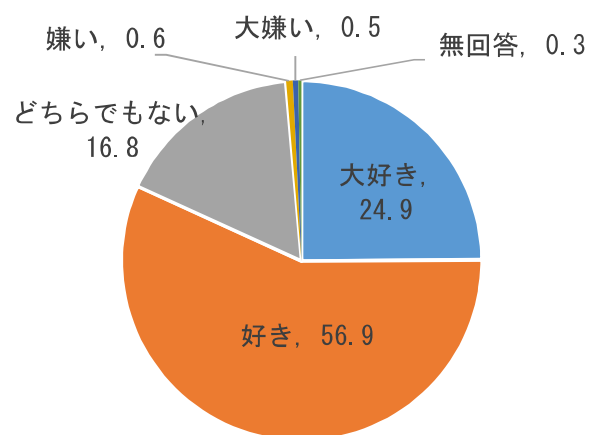
◆居住年数



項目	回答数 (件)	割合 (%)
1年未満	29	2.8
1～3年未満	36	3.5
3～5年未満	24	2.4
5～10年未満	25	2.4
10年以上	904	88.5
無回答	3	0.3

3 回答結果

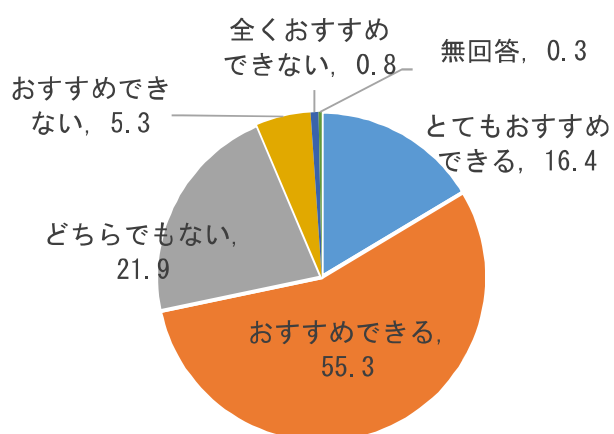
◆浜松のことが好きですか



項目	回答数 (件)	割合 (%)
大好き	254	24.9
好き	581	56.9
どちらでもない	172	16.8
嫌い	6	0.6
大嫌い	5	0.5
無回答	3	0.3

・『好き』（「大好き」＋「好き」）が81.8%、『嫌い』（「嫌い」＋「大嫌い」）が1.1%と、『好き』の方が80ポイント以上上回っている。

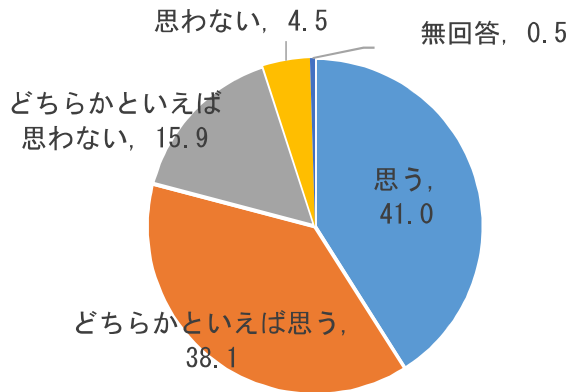
◆浜松を誰かに、どの程度すすめたいと思いますか



項目	回答数 (件)	割合 (%)
とてもおすすめできる	167	16.4
おすすめできる	565	55.3
どちらでもない	224	21.9
おすすめできない	54	5.3
全くおすすめできない	8	0.8
無回答	3	0.3

・『おすすめできる』（「とてもおすすめできる」＋「おすすめできる」）が71.7%、『おすすめできない』（「おすすめできない」＋「全くおすすめできない」）が6.1%である。

◆これからも浜松に住みたいと思いますか



項目	回答数 (件)	割合 (%)
思う	419	41.0
どちらかとい えば思う	389	38.1
どちらかとい えば思わない	162	15.9
思わない	46	4.5
無回答	5	0.5

・『思う』（「思う」＋「どちらかといえば思う」）が 79.1%、『思わない』（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）が 20.4%である。

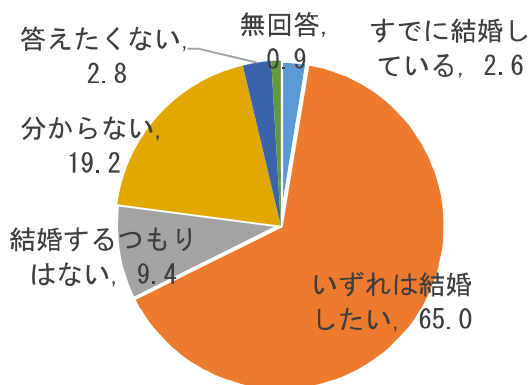
「1. 思う」「2. どちらかといえば思う」と回答した理由（上位 3 件）

項目	回答数 (件)	割合 (%)
住み慣れているから	693	85.8
浜松に愛着があるから	342	42.3
家族の近くで暮らしたいから	321	39.7

「3. どちらかといえば思わない」「4. 思わない」と回答した理由（上位 3 件）

項目	回答数 (件)	割合 (%)
都会に住みたいから	91	43.8
希望する就職先がないから	69	33.2
休日などに遊ぶ場所が充実していないから	69	33.2

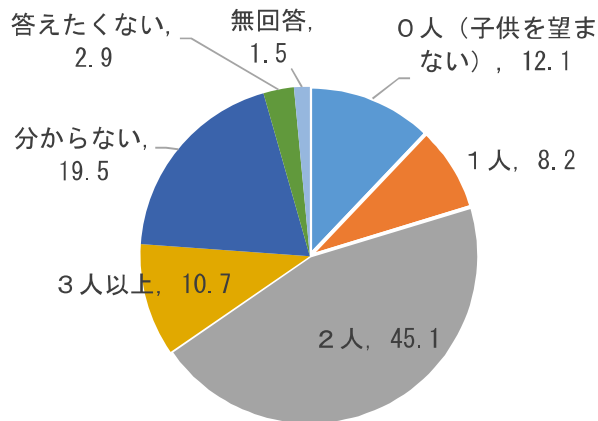
◆自身の結婚について、どのように考えていますか



項目	回答数 (件)	割合 (%)
すでに結婚している	27	2.6
いずれは結婚したい	664	65.0
結婚するつもりはない	96	9.4
分らない	196	19.2
答えたくない	29	2.8
無回答	9	0.9

・「いずれは結婚したい」が 65.0%で、「結婚するつもりはない」が 9.4%で、50 ポイント以上上回っている。

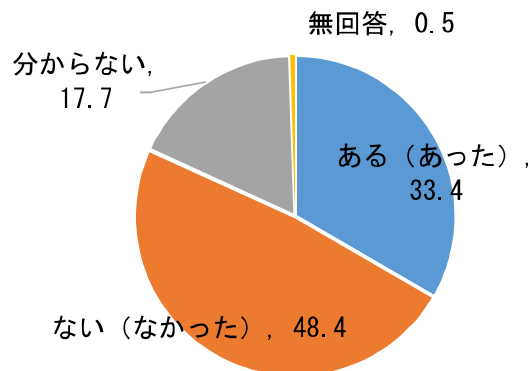
◆考えている子供の人数は何人ですか



項目	回答数 (件)	割合 (%)
0人 (子供を望まない)	124	12.1
1人	84	8.2
2人	460	45.1
3人以上	109	10.7
分からない	199	19.5
答えたくない	30	2.9
無回答	15	1.5

- ・「2人」が最多の45.1%、「0人（子供を望まない）」は12.1%であった。
- ・『1人以上』（「1人」＋「2人」＋「3人以上」）は、64.0%であった。

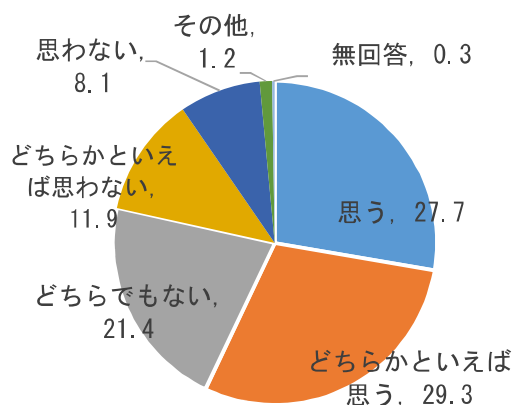
◆浜松に、通いたいと思える大学や専門学校はありますか（ありました）か



項目	回答数 (件)	割合 (%)
ある(あった)	341	33.4
ない(なかった)	494	48.4
分からない	181	17.7
無回答	5	0.5

- ・「ない（なかった）」が最多の48.4%と「ある（あった）」の33.4%と15ポイント上回っている。

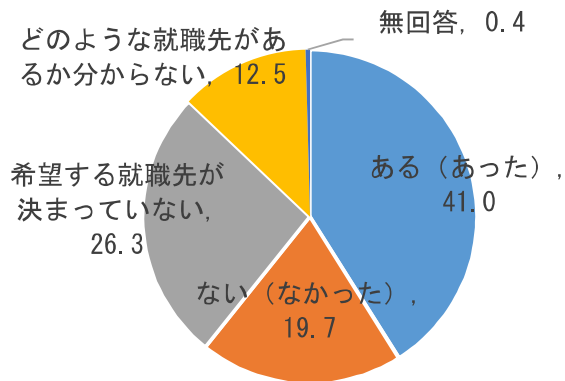
◆浜松で働きたいと思いますか



項目	回答数 (件)	割合 (%)
思う	283	27.7
どちらかとい えば思う	299	29.3
どちらでもない	219	21.4
どちらかと いえば思わない	122	11.9
思わない	83	8.1
その他	12	1.2
無回答	3	0.3

- ・『思う』（「思う」＋「どちらかといえば思う」）が57.0%、『思わない』（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）が20.0%と、『思う』の方が35ポイント以上上回っている。

◆希望する就職先（企業など）は浜松にあります（ありました）か



項目	回答数 (件)	割合 (%)
ある（あった）	419	41.0
ない（なかった）	201	19.7
希望する就職先が決まっていない	269	26.3
どのような就職先があるか分からない	128	12.5
無回答	4	0.4

・「ある（あった）」が最多の41.0%である。『決まっていない・分からない』（「就職先が決まっていない」＋「どのような就職先があるか分からない」）は、38.8%である。

希望する（希望していた）業種（上位5件）

項目	回答数 (件)	割合 (%)
医療・福祉	213	20.9
製造業	168	16.5
分からない	162	15.9
教育、学習支援業	130	12.7
公務	111	10.9

希望する（希望していた）職種（上位5件）

項目	回答数 (件)	割合 (%)
技術職 (製造、開発、建設、土木、ITなど)	233	22.8
介護、福祉、医療、看護	199	19.5
事務、管理職	172	16.8
専門職 (デザイナー、通訳、記者など)	148	14.5
分からない	144	14.1

意見交換における市内在住大学生の主な意見

(1) 概要

職員が、市内 6 大学（静岡文化芸術大学、静岡大学、浜松医科大学、浜松学院大学、聖隷クリストファー大学、常葉大学）を訪問し、意見交換を開催。市内居住の大学生から東京一極集中や地域への愛着、少子化など、人口減少に関する若者の意識について率直な意見を伺った。
（企画課実施）

(2) 対象

市内 6 大学に通う学生（浜松市在住）

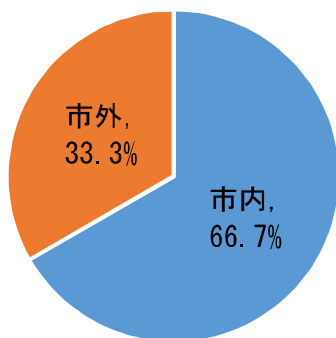
(3) 実施日程

- ・ 8/23（金） 静岡文化芸術大学
- ・ 9/3（火） 静岡大学
- ・ 9/4（水） 浜松医科大学
- ・ 9/9（月） 浜松学院大学
- ・ 9/12（木） 聖隷クリストファー大学
- ・ 9/17（火） 常葉大学

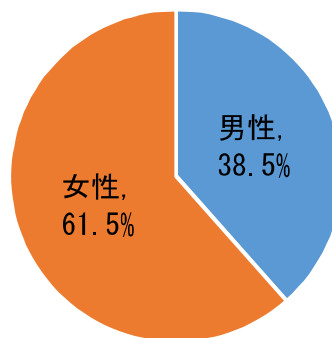
(4) 参加学生の内訳

大学名	参加者数	出身地	性別
静岡文化芸術大学	5 名	市内 5／市外 0	男性 1／女性 4
静岡大学	6 名	市内 1／市外 5	男性 3／女性 3
浜松医科大学	4 名	市内 1／市外 3	男性 0／女性 4
浜松学院大学	5 名	市内 5／市外 0	男性 2／女性 3
聖隷クリストファー大学	5 名	市内 4／市外 1	男性 1／女性 4
常葉大学	14 名	市内 10／市外 4	男性 8／女性 6
6 大学	39 名	市内 26／市外 13	男性 15／女性 24

出身地



性別



(4) 主な意見

浜松を居住場所として選んだ理由は何か。(浜松市の良いところ)

◆田舎すぎず、都会すぎずバランスが良く、住みやすい環境である。

- ・来たときは何も無いと思った。住んでいくうちにいいなと思った。田舎過ぎず、街全体が好き。
- ・程よい田舎で暮らしやすい。小さな公園も多い印象である。子育てはしやすそう。東京にあるものを目指すなら首都圏がよいが、住む分には浜松で良い。
- ・浜松の雰囲気。すごい田舎でもない、すごい都会でもない。ずっと住んでいることもあるが、気を張らなくていい雰囲気。

◆人間関係や地域の中でコミュニティが築けており、維持したい。

- ・小中の仲間がいるのがここにいる理由。仲がいいので離れたくない。愛着があり、築いた人間関係を維持したい。
- ・浜松まつりに昔から参加していて、将来子どもにも参加してほしい。昔の浜松の姿も伝えて行きたい。

◆自然環境に恵まれており、暮らしやすく、豊かな自然に触れ合うことができる。

- ・小さいときから自然に触れ合える機会。浜松は山、川、海、湖自然がすべて集まっている。魅力的な一面。
- ・この年になってから気づくよさがある。子どものうちは調べる手段も限られており、何でも都会にあこがれていた。だが、浜松には、海、山、川、レジャースポット、遊園地、動物園も両方ある都市は意外とない。雪が降らないというのも大人になるとメリットに感じる。
- ・自然が豊か、景色がきれいなことが自分の中で大事。

浜松に住み続けるために必要だと思うことは何か。(浜松市の問題点)

◆市内の交通の便が悪く、移動がしづらい。

- ・赤電とバスとのつながりのところに交通手段がほしい。
- ・浜松は交通の便が不便で駅前の治安が悪い。
- ・高校生までは移動面の不便さがゆえに浜松は好きではなかった。大学生になって車を持つてからは好きになった。

◆浜松ならではの良さを伸ばしてほしい。

- ・浜松は徹底的に東京と違うというところを目指したらどうか。自然が必要で、緑はあるが中途半端。中心部にささやかな公園はあるが、滞在できるような公園広場がない。都会との違いを伸ばしてほしい。
- ・生活するとなると帰って来ない理由より、帰って来る理由がない。いつでも帰って来れるということがある。
- ・自慢するなら浜松ならではのものを自慢してほしい。浜松に行く理由がない。

◆自分の能力や大学で学んだことが活かせる仕事や環境が必要である。

- ・ 広告を使った職種やWEBに携われる働き方ができるとよい。
- ・ 保育に進みたいが自分で小規模園を開きたい。浜松では子どもが減っていること、浜松では規模が大きいところが多く、小規模園のニーズが多い都会に行きたい。
- ・ 自分の能力を活かせる選択肢があるとよい。

◆大学進学時に、市内に幅広い選択肢があるとよい。

- ・ 浜松に住みたいと思っていても、大学進学時に浜松から出ざるを得ない状態である。大学生が少ないのは、大学自体が少ないからという根本的な原因ではないか。
- ・ 私立大学は、実家から通うことが条件であった。このような家庭は少なくないのではないか。だから県外進学する人よりも、高校卒業と同時に就職をする人が多いのでは。将来の目標がない時に、なんとなく大学進学できる人が少ないのでは。大学進学率が低いというデータ結果は当然だと感じた。よく言えば、深く学べる環境が整っているが、一点集中になってしまい選択肢が狭まっている。
- ・ 家庭によっては、経済的な理由で進学先が制限されることは、他都市に比べて多いのではないかと思う。浜松から出ていく人が多いのは、大学が少ないため。東京・関西に進学した友人は、就職では浜松に戻ってこない人が多い。

地域に愛着を持ったら、その地域に住み続けたり戻って来たりすると思うか。

◆浜松は地域とのつながりが深い。地域とのつながりは住み続けるにあたり大事である。

- ・ 20年ぐらい住んでいて、地域に育ててもらったという意識がある。今度は自分が、地域の人、子ども達に返していきたい。社会貢献的な意味で恩返ししたい。これからの浜松がどんな姿になっていくか協力しながら見ていきたい。それが繰り返されることで地域が育っていくと思う。もらった分を地域に返していきたい。
- ・ 浜松市は地域活性がすごいと思う。大学に来て地域貢献を行う中で、一つ一つの小さな地域でも地域を盛り上げる活動をしていると感じた。幼少期には大学生と関わった記憶がないため、このあたりは、地域住民と学生の交流が多いと感じる。さらに、お祭りが多い印象がある。夏休み中は各所で花火をやっている。

なぜ若者は東京圏に行き、戻ってこないと思うか。

◆自身がやりたい仕事や魅力的な企業が東京圏にあるから。

- ・ワクワクする仕事は東京に集まっている。
- ・世間一般での大手企業が少ないイメージ。新卒として全国、世界に名の通った企業を考え、次に住む場所をセカンドライフ的に選ぶ。そうすると浜松は選択肢としては外れる。
- ・インターン中に広報関係の仕事をしていたが、浜松市内の考えが古いと感ずることがあった。浜松は広報といえば、デザイン、発注、印刷など広報に関することをすべて個人が行うという考え方があった。東京では、デザインは外注、その修正指示など分業している。その辺りの考え方のずれも東京に出ていく要因かも。
- ・浜松と東京で就職活動をするのは距離があるため難しい。企業ツアーとかできると効果的。就職活動を頑張るのはその場所に魅力的な企業があるから。学生と企業とうまくマッチングできればいいが、知らずにいる事が多い。

◆都会へのあこがれ、情報量や経験できることが豊富であるから。

- ・やりたい事が見つからない人が、情報量が多い東京に行けば何か見つかるかもと期待していく人は多いのではないかと。また、人との出会いの機会が多いと思う。
- ・必要なものは浜松でも揃っている。より専門的なものは東京、首都圏の方にチャンスが多いように思う。

結婚についてどのように考えるか。

◆家庭についての印象や考えによって結婚希望に影響がある。

- ・家族の中がよく、家族をもちたいと思う。
- ・結婚は全くしたいと思わない。家族に良いイメージがない。夫婦関係に良いイメージがない。
- ・自分は一人では死にたくないため結婚したいと思う。未婚率が上がっていることについては否定的な思いはない。

◆仕事や収入によって結婚の希望は、左右される。

- ・結婚もしたいし、子どももほしいが、仕事を続けたい。
- ・結婚はしたいが、20代前半では仕事にフォーカスしたいと思っている。仕事にフォーカスするとパートナーにかまう暇も余裕もない。仕事が落ち着いてきたら、結婚も考えていきたい。

◆自己実現にとって、リスクやネガティブな要素だと考えている。

- ・結婚することはリスク。自分が幸せに考えられるかもわからないのに、自分の子どもが幸せになれるとはわからない
- ・結婚、出産することにより、時間もお金も取られてしまうという心配をしている。・結婚までの時間があるうちに自分の時間を大事にしようという情報が入ってくると、結婚するよりも自分を優先するのではないかと。

子どもを持つことについてどのように考えるか。

◆子どもを持つことの責任の大きさや子どもの将来を心配している。

- ・子どもはいらないと思っている。子どもを産む責任の大きさが心配で踏み出せない。子育てに関する悪いニュースも多くマイナスな印象が多い。一人の人生を左右することを20代のうちに決めるのは難しい。
- ・地球が住みづらい感じになっている未来を考えたときに、生まれた子どもが成長したときに幸せになれるのか？と考えると、何も考えずに子どもを持つことは難しい。

◆子ども安心して産み、育てるための環境整備が必要である。

- ・働きたいと思っているので保育園や保育環境が充実しているとよい。
- ・子どもはほしいと思うが、教育費のサポートとか、子育て家庭のサポートがもう少し手厚くなったら考えたい。
- ・女性が仕事をしたい欲が最近は出てきていることが多い。女性が出産した後も仕事を続けられることが保証されると安心して産めるのでは。